

平成 2 6 年 度

# 研究紀要

第 1 0 号

秋田県立横手清陵学院  
中学校・高等学校

## H26 研究紀要（第10号） 目次

### 1 研究授業および校内研修の記録

#### （1）中学校指導主事訪問（第1回、第2回）

佐藤 貴之	・ ・ ・ ・	1
奥山江美子	・ ・ ・ ・	4
阿崎 厚志	・ ・ ・ ・	7
佐々木 公・照井 進	・ ・ ・ ・	13

#### （2）高校指導主事訪問（国語、数学、英語、保健体育、工業）

加藤 環	・ ・ ・ ・	19
奥 健悦	・ ・ ・ ・	22
鈴木 愛梨	・ ・ ・ ・	26
金森 道	・ ・ ・ ・	37
佐藤 三雄	・ ・ ・ ・	40

### 2 SSHのあゆみ（5年次）

佐々木輝雄	・ ・ ・ ・	44
-------	---------	----

### 3 校外研修の記録

#### （1）教員派遣研修

五十嵐宏秀	・ ・ ・ ・	54
-------	---------	----

### 4 年次研修の記録

#### （1）高等学校10年経験者研修

松井 泰紀	・ ・ ・ ・	55
宮原 公	・ ・ ・ ・	60
奥 健悦	・ ・ ・ ・	72

#### （2）高等学校初任者研修

渡部 亮太	・ ・ ・ ・	77
-------	---------	----

# 1 研究授業および校内研修の記録

## (1) 中学校指導主事訪問

第1回、第2回

## (2) 高校指導主事訪問

国語、数学、英語、保健体育、工業

1. 主題名 「信頼と友情」 内容項目 2－(3)  
 「集団生活と規律」 4－(1)

2. 資料名 「吾一と京造」(山本有三『路傍の石』より)

### 3. 主題設定の理由

#### (1) 価値の分析

「信頼と友情」はよりよい集団生活や社会生活を営む上で、必要な条件となる価値である。互いに理解し合い、高め合うことによって、関わりの中から多様な世界観や価値観に気づき、自他共に成長することにつながる。内容項目 2－(3)では、「友情の尊さを理解して心から信頼できる友だちをもち、互いに励まし合い、高め合う」とある。友人関係が醸成されつつある1年生2学期段階において、真の友情に気づき、よりよい学校生活を送ることと関連づけたい項目である。

また、私たちが生活している社会では、きまりが存在し、そのきまりを守ることによって社会生活の秩序が保たれ、それぞれの権利が保障されている。個人の事情や主張を優先するあまり、きまりがないがしろにされてしまうと、自己中心的な行動を取ってしまうことにもつながり、周囲に対して配慮のない行動にもなる。内容項目 4－(1)では、「法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。」とある。集団生活をよりよいものにしていくためにも、一人ひとりが互いの権利を尊重し、正しく主張するとともに、集団におけるきまりを守るなどの義務を果たそうとする態度を育成することが重要であると考えられる。

#### (2) 生徒の実態

入学当初は、人間関係を構築することに不安感を持ちながら過ごしていた生徒も、一学期を終え、学級における所属感や役割意識が高まり、諸活動に積極的に関わることができる生徒が多く見られるようになってきた。また、コミュニケーションの輪が広まり、信頼感の醸成が進んできている。一方で、友達関係を深めようとするあまり、自分の思いや考え方を一方的に主張して誤解を招いたり、逆に他に合わせすぎでしまい自分の思いを表現できずに同調してしまったりしている場面なども見受けられる。

道徳の学習を進める中で、1学期は主に「ルール～集団生活のために」をテーマとし扱ってきた。学級や学年における人間関係を醸成する期間に「集団生活」という要素を意識させることで、よりよい学校生活を築くことをねらったものである。

これまでの学習や経験をふまえて、集団生活や友人関係に関わるアンケートを採ったところ次のような結果が見られた。

質問：集団に関わるある問題が生じたとき、集団行動と友情どちらを優先しますか。(回答30人)	
ア：集団行動を優先・・・17人	イ：友情を優先・・・13人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人のことでみんなを巻き込みたくないから。</li> <li>・誰か一人を優先していたら集団が困るから。</li> <li>・集団の利益の方が優先だと考えるから。</li> <li>・友情も大切だが、集団の中での信頼が失われてしまうのは怖い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達を裏切るような行動は取りたくないから。</li> <li>・友情を消したくないから。</li> <li>・信頼関係を崩したくないから。</li> <li>・無理矢理集団に合わせなくてもいい。</li> </ul>

上記のように、問題に直面したときに「集団」と「友情」との両方の重要さに気づきながら、「信頼関係」のあり方をどのように築くかという観点で葛藤している様子を読み取れる。よりよい集団生活、よりよい友人関係とはどのようなものであるのか。互いに高め合うためにはどのような行動を取っていく必要があるか。「信頼と友情」「集団生活と規律」の両面から多面的に考えさせていきたい。

### (3)資料の分析と指導の方針

本資料は、規範を守ることの意義と友情や信頼関係との狭間で葛藤する吾一の思いに触れながら展開する。なかなか集合場所に現れない秋太郎をめぐり、学校のルールを遵守することを優先する吾一と、友達を気づかいながら思いを注ぐ京造との対比に気づかせたい。集団生活で優先する価値基準を何にするかによって、行動が変わることに迫っていききたい。

これらの価値を深めていくためにも、この題材を2時間構成で取り組みたいと考えている。1時間目には、吾一と京造がなぜそれぞれの行動を取ったのかを資料を軸に掘り下げていききたい。そして、吾一と京造の行動や心情に焦点をあて、「吾一と京造の行動、君はどちらの行動を支持するか」という問いかけを行い、これまでに学んできた道徳的価値や考えを根拠として評価させたい。

2時間目には、吾一と京造の行動に対する評価について、それぞれの立場を対比させることによって深めさせたいと考えている。単なる是非を問うだけでなく、集団生活のあり方や友情のあり方などの視点を与えることによって、これまでに学んできた価値を活用して考えることにつながるのではないかと考える。その際に、生徒間による質疑なども行い根拠を明らかにしながら自分の立場から考えた価値判断を述べさせたいと考えている。そして、最終的に、「信頼関係」という価値基準を土台として、吾一と京造がどのような行動を取る必要があったかをまとめることによって、信頼できる人間関係や互いに高め合おうとする関係を築くための手立てについて意欲的に考えさせたいと思う。

吾一と京造の行動と心情の揺れを多面的な見方から考えることによって、本校道徳部の目標「よりよい生き方を追求し、自己への問いかけを深めることができる生徒の育成」および、本校の研究主題「絶えず問いを立て、その問いを意欲的・主体的・計画的に解決しようとする生徒の育成」につながるものと考えている。

## 4. 本時を含む統合的プログラムの概要

計10時間－本時4/10

### 第3プログラム：「集団と個人」

題材名	内容項目	形態
①ゴミ収集車	3－(3) 奉仕の精神	I C
②マラソンの距離	2－(4) 男女の平等	I C
③吾一と京造	2－(3) 信頼と友情	MD
(2時間構成：本時2時間目)	4－(1) 集団生活と規律	
④わたしの中学校	4－(7) 愛校心	I C
⑤カーリー・ピカップさん	2－(1) 礼儀	MD
(2時間構成)	4－(10) 国際理解	
⑥選手に選ばれて	4－(4) 集団での役割と責任	MD
(2時間構成)	2－(5) 互いの立場の尊重	
⑦「集団と個人」をふり返る	4－(4) 集団生活の向上	I T

授業形態 IC:インカルケーション MD:モラルディスカッション IT:インテグレーション

## 5. 本時の計画

(1) ねらい よりよい信頼関係を築くために、真の友情や集団生活におけるきまりの意義について考え、互いに高め合う心を育むことができる。

(2) 展開の概要

	学習活動と主な発問	予想される生徒の心の動き	教師の支援				
導入	1. 話し合いのテーマを確認する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・イスのみの学習形態とし、話し合いが円滑にできるよう工夫する。</li> </ul>				
	吾一と京造の行動，君はどちらの行動を支持するか。						
展開	2. 前時にまとめた意見を短冊を紹介しながら発表する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>吾一の行動を支持</th> <th>京造の行動を支持</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のきまりを守ろうとしたことは正しい行動だ。</li> <li>・自己中心的に動いてしまったが，その動きがなければ他の友達も遅れてしまっていたはず。</li> <li>・時間やきまりを守らないということは，集団生活の中で信頼関係を失うことだ。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のことを優先して考えていて，勇気のある行動だ。</li> <li>・自己犠牲を払ってまでも友達をかばう姿は，信頼の証そのものだ。</li> <li>・他の友達に先に行けと話したことから，リーダー性がある。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	吾一の行動を支持	京造の行動を支持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のきまりを守ろうとしたことは正しい行動だ。</li> <li>・自己中心的に動いてしまったが，その動きがなければ他の友達も遅れてしまっていたはず。</li> <li>・時間やきまりを守らないということは，集団生活の中で信頼関係を失うことだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のことを優先して考えていて，勇気のある行動だ。</li> <li>・自己犠牲を払ってまでも友達をかばう姿は，信頼の証そのものだ。</li> <li>・他の友達に先に行けと話したことから，リーダー性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えを共有化できるように，教室の周囲に短冊を貼る。</li> </ul>
	吾一の行動を支持	京造の行動を支持					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のきまりを守ろうとしたことは正しい行動だ。</li> <li>・自己中心的に動いてしまったが，その動きがなければ他の友達も遅れてしまっていたはず。</li> <li>・時間やきまりを守らないということは，集団生活の中で信頼関係を失うことだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のことを優先して考えていて，勇気のある行動だ。</li> <li>・自己犠牲を払ってまでも友達をかばう姿は，信頼の証そのものだ。</li> <li>・他の友達に先に行けと話したことから，リーダー性がある。</li> </ul>						
3. 二人の行動について視点を設定して考えを深める。 ①京造の行動は，集団行動を乱す行為か。 ②吾一の行動は，友情を損なう行為か。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>吾一の行動を支持</th> <th>京造の行動を支持</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>           ①時間に合わせたり，きまりを守ったりすることで，集団の中で安心して過ごすことにつながるのではないか。            ②友達の意見に流されてしまうのではなく，自分の考えをしっかりもち，主張することも大切。注意やアドバイスを互いに送ることができる関係が大切ではないか。         </td> <td>           ①孤立したり，取り残された状態をつくることこそが集団生活を不安にするもただ。            ②自己犠牲を払ってでも困っている友達を見捨てず手をさしのべたり，悩みを共有することが信頼関係を築くもとになる。         </td> </tr> </tbody> </table>	吾一の行動を支持	京造の行動を支持	①時間に合わせたり，きまりを守ったりすることで，集団の中で安心して過ごすことにつながるのではないか。 ②友達の意見に流されてしまうのではなく，自分の考えをしっかりもち，主張することも大切。注意やアドバイスを互いに送ることができる関係が大切ではないか。	①孤立したり，取り残された状態をつくることこそが集団生活を不安にするもただ。 ②自己犠牲を払ってでも困っている友達を見捨てず手をさしのべたり，悩みを共有することが信頼関係を築くもとになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短冊の内容を見ながら，視点に関することを生徒間で質問し合うよう促す。</li> <li>・深めるために，多数派の意見に対して問い直しを行う。</li> </ul>	
吾一の行動を支持	京造の行動を支持						
①時間に合わせたり，きまりを守ったりすることで，集団の中で安心して過ごすことにつながるのではないか。 ②友達の意見に流されてしまうのではなく，自分の考えをしっかりもち，主張することも大切。注意やアドバイスを互いに送ることができる関係が大切ではないか。	①孤立したり，取り残された状態をつくることこそが集団生活を不安にするもただ。 ②自己犠牲を払ってでも困っている友達を見捨てず手をさしのべたり，悩みを共有することが信頼関係を築くもとになる。						
まとめ	4. 話し合いを受けて考えをまとめる。		○二人の行動の意味を多くの道徳的価値を根拠に考え，信頼できる人間関係や互いに高め合おうとする関係を築くための手立てについて意欲的に考えている。				
	信頼関係の中で生活を営むには，吾一，京造はそれぞれどのような行動を取ることが必要だったか。						
	5. 本時の学習を学習シートにふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吾一は学校に到着した時点で京造たちの様子を知らせておくべきだった。</li> <li>・勝手に一人で登校するのではなく，先に行って事情を説明するなど協力して問題を解決すべきだった。</li> <li>・一人で秋太郎のことを背負わないで，よく話し合うことが必要だった。</li> </ul>					

1. 主題名 奉仕の精神 内容項目 4－(5)

2. 資料名 ボランティア 2

3. 主題設定の理由

(1) 価値について

内容項目4－(5)は勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努めようとする態度を養うことである。

純粹に勤労の喜びを感じた経験、誰かのために行うことが自分の喜びとなる満足感などといった経験があるとその尊さや意義を理解し、さらに、奉仕の精神へとつながると思われる。また、自分の生きがいとして社会に貢献している人に触れることで生き方の理想を抱くことができると思われる。中学生といえ、与えてもらう人から与える人にもなりうる時期である。ともによりよく生きようと考えられる時期でもある。そのような時に、勤労の喜びを感じたり、理想となる姿に触れたりすることは意義深い。自分のできることは何かを考えることで社会に貢献しようとする態度につながる。

(2) 生徒の実態

生徒は夏期休業を利用して職場体験活動を行った。職場体験レポートから、働くことの大変さや仕事に対する責任の重大さ、あいさつの大切さなどたくさんのことを学んだことが伺える。大変でもやりがいを感じながら働く姿を間近に見ることができ、どんな仕事でも社会のため、誰かのために役立っていることも学んだ。学校生活において、勤労体験といえ、毎日の清掃や給食といった当番活動が挙げられる。当番活動への取り組みは個人差が大きい。

ボランティアについてアンケート結果は次の通りである。

質問：ボランティアから想起される言葉は？

回答：みんなのため、困っている人のため、支援、積極的に人のために被災者や被害地の支援、協力、助け合い、地域のため、無償での手伝い人が喜んでくれる、募金、ゴミ拾い、プルタブ集め、老人ホーム

質問：ボランティアをしたことがあるか？また、その内容は？

回答： あり 21人 → クリーンアップ、募金、チャリティーバザー  
地区の緑化作業、老人ホームの慰問

ない 11人

質問：機会があればボランティアをしてみたいか？どんなことをしたいか？

回答： したい 15人 → 老人ホームの慰問、募金活動、力仕事以外何でも  
クリーンアップ、学校内の掃除・整頓、人のために

したくない 17人

ボランティアについて想起される言葉から「誰かのため」「協力」「助け合い」を挙げた生徒が多く何かをしてあげるという印象をもっているようだ。子ども会や地域の行事等でボランティアを行ったことがある生徒が多く、その活動はいろいろである。ボランティアをしたいと答えた生徒の中で学校内外の掃除と身近なことを挙げたのは、1人だった。ボランティアをしたいという生徒数よりもしたくないという生徒がやや多い。

### (3) 資料の分析と指導の方針

この資料はボランティア活動を行いたくないと考えていた生徒が、トイレのげたをそろえる友だちの行動を見て、自分を振り返り、ボランティア活動に対する考えを変えるという内容である。生徒作文であるため平易な言葉で書かれてあるのでわかりやすく、また、自分たちの学校生活に照らし合わせて考えることができる。ボランティアとは「奉仕者」という意味で「地域社会のために自分から積極的に、しかも何の報いも期待せずに活動する人」と定義付けされている。河川等のクリーンアップや被災者の手伝いなどボランティアと言っても様々であるが、どこかにでかけて行って特別なことをするボランティアではなく、日常の生活において身近で小さなことから行うことで誰もがボランティア活動に参加することができるという旨を示唆している。

生徒は道徳の時間でボランティアについては考えるのは2回目となる。資料「ボランティア1」で、阪神大震災でボランティアに行きたいと話す少年の気持ちについて考えている。人の役に立ちたいという気持ち、奉仕の精神をもつことは素晴らしいことであると改めて感じさせるとともに、人として生きる理想であるということを植え付けさせたい。すぐに行動に移すことができる人、そうでない人というであろうが、人の役に立ちたいという気持ちや地域社会に貢献したいという気持ちを大事にしたい。さらに、身近なことで自分ができることに気づかせ、小さなボランティアから始めるという気持ちを育てたい。

道徳の時間では、特に、自分の考えをもつこと、それを伝えることでそれぞれの考えを深めることができるので考えを伝えることが大事であると話してきた。話しやすい雰囲気を作ることを心がけ、いろいろな考えや意見を受け止める姿勢を大事にしたい。他の人の意見を聞くことで再確認したり、あるいは、新たに気付いたりすることができると思う。表面的なことだけにならないように、自分の体験を関連づけたり、いろいろな意見を聞いたりして、内面化を図りたい。

それが、本校道徳部の目標「よりよい生き方を追求し、自己への問いかけを深めることができる生徒の育成」および、本校の研究主題「絶えず問いを立て、その問いを意欲的・主体的・計画的に解決しようとする生徒の育成」につながるものと考えている。

## 4. 本時を含む統合的プログラムの概要

計 1 2 時間—本時 4 / 1 2

### 第 2 プログラム：「集団と個の力学」

題 材 名	内 容 項 目	形 態
① 校章旗	4-(7) 愛校心	IC
② 求めてばかりいないで	2-(3) 本当の友情	IC
③ ボランティア 1	4-(5) 奉仕の精神	IC
④ ボランティア 2 (本時)	4-(5) 奉仕の精神	IC
⑤ キャンプの話し合い (2 時間構成)	4-(4) 集団での役割と責任 2-(5) 互いの立場の尊重	MD
⑥ アトラクション	2-(4) 男女の協力	IC
⑦ 車いす～図書館での出来事	4-(2) 社会連帯の心	IC
⑧ 戸締まり当番 (2 時間構成)	4-(4) 集団での責任と役割 2-(5) 自他の権利の尊重	MD
⑨ 社会科見学での出来事 (2 時間構成)	4-(4) 集団生活の向上 2-(5) 互いの意見の尊重	MD

授業形態 IC：インカルケーション MD：モラルディスカッション

## 5. 本時の計画

### (1) ねらい

誰かのために、社会のために役立ちたいという奉仕の精神をもち、身近なことでも自分にできることは何かないか考えることができる。



## 第2学年A組 社会科（地理的分野）学習指導案

指導者 阿崎 厚志

1 単元名 日本 の 諸 地 域 「東北地方～生活・文化を中核とした考察」

### 2 目 標

- (1) 生活・文化の視点から見た東北地方の地域的特色に関心をもち、産業や他地域との結びつきなどと関連付け、東北地方の地域的特色について意欲的に追究しようとしている。【関】
- (2) 東北地方の地域的特色を、生活・文化を中核としてさまざまな地理的条件と関連付け、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。【考】
- (3) 東北地方の地域的特色に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して読み取っている。【技】
- (4) 東北地方における生活・文化を中核とした考察を基に、東北地方の地域的特色について理解している。【知】

### 3 生徒と単元

- (1) 生徒について（男子18名，女子14名，計32名）

本単元のレディネスに関するアンケート結果は以下の通りである。

○「東北地方」について知っていることは何ですか。（複数回答）

【産業】農業がさかん9人，稲作がさかん10人，果物づくりがさかん5人

【自然環境】雪が多い10人，寒い8人，奥羽山脈8人，自然が豊か3人，東日本大震災5人，面積が大きい2人

【生活・文化】方言4人，祭りがさかん2人

【歴史的背景】奥州藤原氏1人，中尊寺1人，蝦夷1人

【他地域との結びつき】観光がさかん3人

【人口（都市と村落）】人口減少1人

\*その他：田舎，学力1位，食べ物が豊富，秋田杉，比内鶏，人が優しい，原発事故 など

「東北地方について知っていること」では、「稲作がさかんである」「雪が多い」といった「産業」「自然環境」に関する回答が多かった。それに対し、「歴史的背景」「他地域との結びつき」「生活・文化」「人口（都市と村落）」について回答した生徒は少数にとどまった。東北地方は、生徒にとって最も身近な地方であり、既得知識は他の地方に比べると多いと思われるが、一面的な捉え方にとどまっているとすることができる。また、「東北地方はどんなところですか」という質問に対しては、「自然が豊かで住みやすいところ」という回答が多く、肯定的に捉えている生徒が多いようであるが、複数の視点から東北地方を捉えている生徒は少数であった。

昨年度の学習状況調査の結果を見ると、複数の資料を関連付けて考察し、その結果を適切に表現する力が若く弱いことが分かった。そのために、普段の授業の中に、資料を丁寧に読み取る場面、複数の資料を活用する場面を設けるようにした。こうしたことで、学習シートに記入した資料の読み取りや考察の内容が徐々にではあるが向上しつつある。

## (2) 単元について

本単元は、学習指導要領の内容(2)「日本の様々な地域」のウ「日本の諸地域」の「日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、以下の(ア)から(キ)で示した考察の仕方に基づいて、地域的特色をとらえさせる。」の(カ)「生活・文化を中核とした考察」として東北地方を取り上げる。

東北地方は、冷涼で降雪量が多いが、豊かな自然をもつ地方である。冷涼な気候のため古くからききんや凶作に苦しむことがあったが、品種改良等の努力を続け、現在は国内有数の穀倉地帯となっている。近年高速交通網の発展に伴い、工業団地が各県に作られるようになってきたり、観光客が増加したりしている。一方、高速交通網が通らない地域を中心に人口の減少が進んでいる。

また、東北地方には伝統的な生活・文化が多く残されている。秋田県の竿燈や青森県のねぶたなど、国指定重要無形文化財が多く、秋田県の指定数は全国一である。さらに、東北地方の指定数は中部地方について2番目で、一県あたりの指定数は最も多い。また、南部鉄器や大館曲げわっぱなどの伝統的工芸品も東北地方の各地で継承されている。

伝統的な生活・文化は稲作と大いに関連している。冷涼な気候のため古くからききんや凶作が多く、豊作を祈って祭りが行われた。また、伝統的工芸品は、冬の農閑期の副業として発達した。このように、東北地方の伝統的な生活・文化は、冷涼な自然環境、ききんや凶作といった歴史的背景、農業特に稲作と関連している。また、課題として、都市化、国際化、情報化に伴って、生活・文化の同質化が進んでいること、少子高齢化によって後継者が不足していることがあげられる。このような状況の中で、伝統的な生活・文化を守り、観光資源として活用したり、地域づくりに生かしたりする動きも盛んになってきている。

伝統的な生活・文化が東北地方の地域的特色を端的に示しており、他の社会的事象と関連付けて考察することができるので、「生活・文化」を中核にして、東北地方の地域的特色を捉えていきたい。

## (3) 指導について

### ①「ねらいー学習課題・めあてー学習活動ーまとめ・評価」に整合性のある授業づくりについて

単元の目標を設定した後、生徒に思考・表現させたい生活・文化を中核とする単元の構造図、まとめの文例を作成する。そして、このような生徒の姿を可能にするような学習問題と学習活動を構想するという手順を踏む。

### ②研究主題「絶えず問いをたて、その問いを意欲的・主体的・計画的に解決しようとする生徒の育成」について

単元を貫く学習問題を設定することで、どの学習過程でも問いを持ち続けて活動することができるようにする。学習問題の設定については、資料の読み取りから生じた気づきを学習問題につなげるようにする。生徒の祭りに対する興味・関心は高いと思われるが、レディネスに関するアンケートによると、東北地方の特色として「伝統的な祭りがさかんである」と捉えている生徒は多くない。そこで、資料から読み取ることができる「東北地方は国指定重要無形文化財が多く、秋田県の指定数は全国一である」という気づきから学習問題の設定につなげたい。また、学習問題に対する予想をしっかりと立てさせることで、見通しをもって主体的に活動することができるようにする。また、見通しをもった主体的な活動をさせるために、単元の学習計画が書かれた学習カードを用意する。学習カードに、1時間ごとに分かったことをまとめさせることで、自分の学習を振り返らせるとともに、学習の変容を見取る材料としたい。

### ③「思考力の向上」～議論の中で自分の意見を磨き高める姿勢の育成～

学習問題の予想を立てる場面、調査したことを基に、生活・文化を中核として事象間の関連を考察する場面で小グループの話し合いを設ける。その際、自分の考えを磨き高めるために、まず個人で考える時間を設けた後、グループでの議論で考えを練り上げるようにする。

また、グループでの思考を可視化することができるようにホワイトボードを活用する。

4 単元の全体計画（本時 1 / 5）

(1) 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
生活・文化の視点から見た東北地方の地域的特色に関心を持ち、産業や他地域との結びつきなどに関連付け、東北地方の地域的特色について意欲的に追究しようとしている。	東北地方の地域的特色を、生活・文化を中核として、さまざまな地理的条件と関連付け、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	東北地方の地域的特色に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して読み取っている。	東北地方における生活・文化を中核とした考察を基に、東北地方の地域的特色を理解している。

(2) 指導計画

時	ねらい	主な学習活動	評価規準			
			社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
1 本時	単元を貫く学習問題を設定し、予想を立てることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北地方について知っていることを発表する。</li> <li>東北地方には、伝統的な祭りが多くあることを資料から読み取る。</li> <li>単元を貫く学習問題を設定し、予想を立てる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>東北地方で伝統的な祭りがさかんであることを中核に、事象と事象を関連付けて、学習問題に対する予想を立てている。</li> </ul>		
		なぜ、東北地方では、伝統的な祭りがさかんなのだろう。				
2 3	諸資料を活用して、学習問題について調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>予想が本当かどうか確かめるための資料を収集する。</li> <li>資料を読み取り、学習問題について考える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を活用して、学習問題について考察している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予想を確かめるために適切な資料を収集している。</li> <li>有用な情報を適切に選択して、読み取っている。</li> </ul>	
4	東北地方で伝統的な祭りがさかんな理由を、事象と事象を関連付けて考察することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査内容を基に、東北地方で伝統的な祭りがさかんな理由をグループごとに話し合う。</li> <li>事象と事象の関連を考察して、図にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北地方の地域的特色に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北地方で伝統的な祭りがさかんであることを中核にして、事象と事象を関連付けて、学習問題について多面的・多角的に考察し、図にまとめている。</li> </ul>		
5	東北地方の地域的特色について文章でまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を基に、東北地方の地域的特色について、文章でまとめる。</li> <li>学習の振り返りを行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>生活・文化を中核にした考察の仕方を基に、東北地方の地域的特色を理解している。</li> </ul>

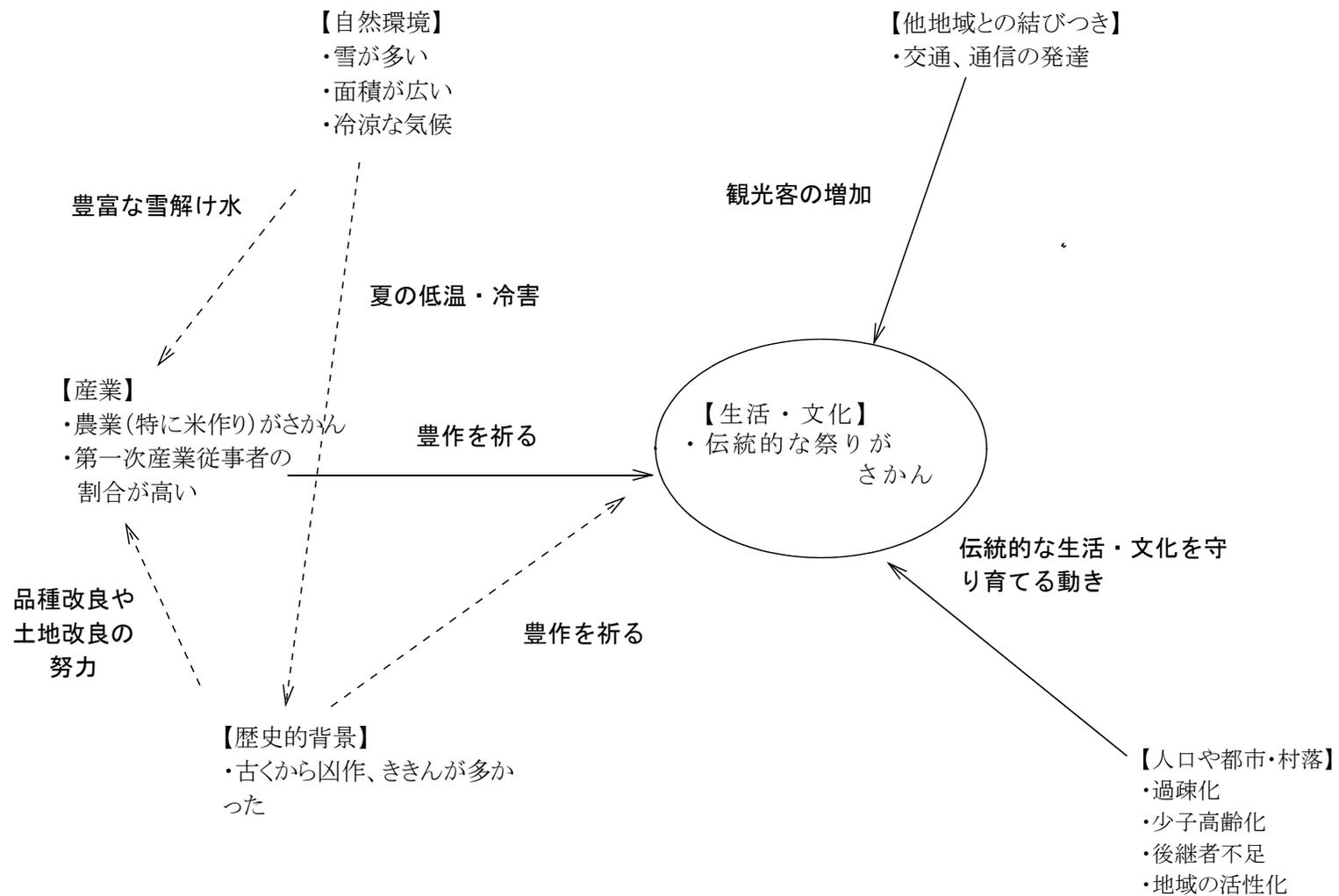
5 本時の実際 (1/5)

(1) ねらい 東北地方の地域的特色につながる事象を関連付けて、学習問題に対する予想を立てることができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指 導 と 支 援	○評価規準【観点】(評価方法) ☆努力を要する生徒への手立て	資料準備
<p>1. 本時の目標を確認する。 〈本時の目標〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">東北地方の特色を捉えるための学習問題を設定し、予想を立てよう</div> <p>2. 東北地方について知っていることを発表する。</p> <p>3. 資料から単元の学習問題を設定する。 〈学習問題〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">なぜ、東北地方では、伝統的な祭りがさかんなのだろう。</div> <p>4. 学習問題に対する予想を立て、発表する。</p> <p>5. 自分の予想を学習シートに書く。</p>	<p>・見通しをもって活動するために、本時の流れを確認する。</p> <p>・既得知識を想起させ、東北地方に対する関心を高める。 ・「自然」「歴史」「産業」等の視点を意識して発表させ、キーワードになるように板書する。</p> <p>・資料「国重要無形民俗文化財都道府県別の指定数」をタイトルを伏せて提示し、資料から秋田県が最も多いことや東北地方が多いことを読み取らせる。そして、資料のタイトルは何か考えさせる。 ・資料のタイトルを明かし、学習問題に結びつける。</p> <p>・要因を考える際、2と3の活動で出た意見を参考にさせる。 ・ホワイトボード上で中核となる事象と他の事象、また、事象と事象の関連を考えさせ、それらを結ぶ言葉を記入させる。 ・複数の視点(事象)を関連付けるようにながす。 ・ヒントとなる写真資料等を用意する</p> <p>・予想の短文は、複数の視点(事象)を関連付けるようにながす。</p>	<p>○評価規準【観点】(評価方法) ☆努力を要する生徒への手立て</p> <p>・事象と事象を関連付けて、学習問題に対する予想を立てている。 【社会的な思考・判断・表現】 (観察・ホワイトボード・ワークシート) ☆ヒントとなる読み取りやすい資料を提示したり、生活経験や既得知識を想起させたりして、「この事象とこの事象はなぜ関連するか」と問い、考えを引き出す。</p>	<p>・資料「国重要無形民俗文化財都道府県別の指定数」</p> <p>・ホワイトボード ・ヒントカード</p>

東北地方 単元の構造図



まとめ (B 評価)

東北地方は農業が盛んで、豊作を祈って始まった伝統的な祭りが今もよく残されている。また、交通の発達にともなって、観光客が多く訪れるようになってきている。現在は、これらの祭りを守っていこうとする動きが盛んになってきている。

【自然環境】

【他地域との結びつき】

【産業】

【生活・文化】  
・伝統的な祭りが  
さかん

【歴史的背景】

【人口や都市・村落】

伝統的な祭りがさかんであることを中心に、他の事象を関連付けて、東北地方の特色についてまとめよう。

# 第1学年 A組 数学科学習指導案

指導者 佐々木 公 照井 進

## 1 単元名 比例と反比例

## 2 目 標

- (1) 具体的な事象を比例，反比例で捉えたり，表，式，グラフなどで表現したりすることに関心をもち，それらを問題の解決に活用しようとする。【関】
- (2) 表，式，グラフなどを用いて比例や反比例などの特徴を見いだしたり，数量の関係を比例や反比例を活用して考察したりすることができる。【考】
- (3) 比例，反比例の関係を表，式，グラフを用いて表現したり，特徴を読み取ったりすることができる。【技】
- (4) 関数関係の意味，比例，反比例の意味とその特徴，座標の意味について理解する。【知】

## 3 単元と生徒

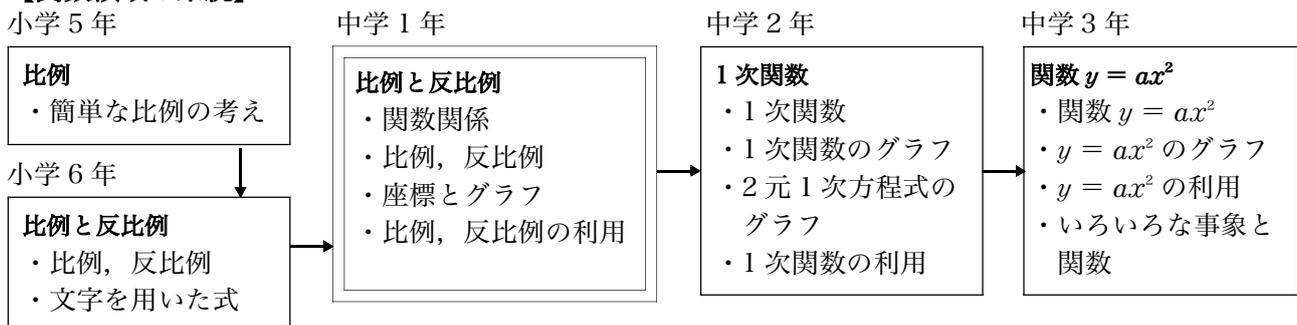
### (1) 単元について

小学校においては，第4学年から第6学年にかけて，数量の関係を□，△， $a$ ， $x$ などを用いて式に表しそれらに数を当てはめて調べたり，変化の様子を折れ線グラフで表し変化の特徴を読み取ったり，比例の関係を理解しこれを用いて問題を解決したり，反比例の関係について理解したりしてきている。また，中学校第1学年においては既に，文字式を計算したり変形処理したり， $x$ を未知数とみて方程式を解いたりしてきている。

本単元では，まず関数関係の意味を理解し，変数や定数の意味としての文字を理解する。実際に生徒が扱うことのできる変数の範囲は有理数までであるが，変数が表す数量を連続的に捉えることで比例の表に $x=0$ を書き加えることが可能になる。また，変数や比例定数を負の数まで拡張するため，比例，反比例の性質を $y=ax$ ， $y=a/x$ で代表し一般的に考察していく。グラフは座標の考えを用いて点をプロットしていった結果，連続した点の集まりが，比例ならば原点を通る直線，反比例ならば双曲線になるものとして捉え，直線の傾きや双曲線の形から変化の特徴を読み取ることができるようにする。

このように，比例，反比例の表，式，グラフを相互に関連づけながら学習していくことで，基本的な関数の特徴について理解を深めていくことになる。

### 【関数領域の系統】



(2) 生徒について (男子 15 名, 女子 14 名, 計 29 名)

本学級では、自分の考えを進んで発表する生徒が多く、授業は和やかな雰囲気で行われている。ただ、自分の考えを相手に上手に伝えようとする意識がまだ低いため、なかなか筋道立てて論理的に話せるところまでは至っていない。読み手を意識してノートをまとめたり、ペアやグループで説明し合う活動を通して、筋道立てて説明する力を伸ばそうとしているところである。

1 学期末の授業アンケートによれば、数学の授業に意欲的に取り組んでいると答えている生徒が第 1 学年の 91.2 %、学習成果に満足していると答えた生徒は 82.8 %であった。5 月に実施した第 1 回学力推移調査 (ベネッセ) での、数学の平均点偏差値が 38.9 (前年度 41.5)、小学校で数学が好きではなかった生徒が 18.3 % (前年度 3.0 %) という結果を踏まえて、学習内容を精選し、じっくり考えたり発表したりする授業を心がけてきた結果が意欲面に表れたといえる。ただし、問題演習が不十分であることから、少し難易度の高い問題になると対応できないため、すぐにあきらめてしまう生徒も多い。

本単元にかかわるレディネステストの結果は以下の通りである。

番号	問題のねらい	正答率(%)
①	比例の表から変化の様子を読み取ることができる。	96
②	比例の意味を理解している。	100
③	比例の関係を文字 ( $x, y$ ) を使って式に表すことができる。	89
④	比例のグラフをかくことができる。	68
⑤	反比例の表から対応の関係を読み取ることができる。	75
⑥	反比例の表から変化の様子を読み取ることができる。	75
⑦	反比例の意味を理解している。	100
⑧	反比例の関係を文字 ( $x, y$ ) を使って式に表すことができる。	75

以上の結果から、既習事項については概ね定着していると思われる。ただし、学力推移調査の結果から割合に関する内容の定着が弱いことがわかっているため、速さや比、倍関係などの割合に関する具体的な問題を丁寧に扱っていくことが大切になってくる。

問題	正答率 (全国)
840mL の 4 割は何 mL か。	63.3 (80.8)
850g の何%が 1.36kg になるか。	26.7 (61.5)
$y$ が $x$ に比例しているとき、 空欄に当てはまる数を答えよ。	70.0 (92.4)

$x$	2	6
$y$	15	

(3) 指導について

○小中連携の立場から

関数の考えは抽象的で中学生にとっては難しい内容であるため、数学のモデルだけでなく、非数学のモデルも利用しながら学習内容の定着をはかりたい。また、ここで  $x \xrightarrow{f} y$  という独立変数と従属変数の関係を扱うことで、比例の商一定の性質が  $y \div x$  であって  $x \div y$  ではないこ

とを理解させたい。変数も生徒にとってイメージが難しい内容の1つである。小学校では数のプレースホルダーとして、方程式では未知数として使ってきた文字が、また別の意味を持つことにとまどう生徒も多いことが予想されるが、本單元だけで概念を定着するのではなく、中学の関数領域の学習を通してしっかりと身につけさせたい。

生徒にとって比例と反比例は小学校で学習した内容の学び直しのイメージが強い單元だけに、既習事項に関する正しい概念を確認するところから入ることとする。倍々の性質は「2倍、3倍、4倍、…」の「…」が任意の実数倍であること、比例の商一定の性質は $y \div x$ であること、比例の式が(決まった数) $\times x = y$ の形になることをまず確認する。

中学校の比例の学習が小学校と大きく異なる点は、①比例の表に $x = 0$ を導入する、②比例と反比例の性質を式で代表させる、③変数と比例定数を負の数まで拡張する、④座標の考えを用いてグラフをかくことがあげられる。①以外は、小学校での学習を素地としながら学び直しができるよう心がけていくことで学習内容の定着をはかっていくことにする。①については、独立変数が連続量となる具体的な事象をとりあげ、 $y = ax$ とかかわりをもたせながら導入していくことにする。

比例、反比例は関数の基本モデルである以前に、数量計算の基礎となる考え方である。しかし、生徒の実態からわかるように、生徒は割合や倍の関係を非常に苦手としている。意識的に倍の関係を $a \xrightarrow{\times k} b$ という形で繰り返し扱うことで、割合や倍の関係に慣れさせていきたい。

#### ○研究主題、指導の重点目標から

重点目標である知識・技能の活用能力の育成を目指すために、まずは基礎となる知識・技能の定着をはかることが大切となる。第1学年では、年間を通して1C2Tでの学習を進めていくことでまずは学習集団全体の基礎固めをおこなっている。

本單元においては、比例、反比例の表、式、グラフを形式的に扱う学習内容が多いが、具体的な事象を多く取り入れたり、非テキストコンテンツであるグラフを読み取る活動を取り入れたりして、数学の授業以外の場面でもこれらを活用する能力を養っていきたい。

#### 4 単元の全体計画 (本時 17/19)

時	学習活動	評価規準	観点
1 ・ 2	①比例の考えを使って予想することがあることを知る。  ②関数、変数の意味を知る。 ②あることがら関数であるかどうかを判断する。	①課題について関心を持ち、身のまわりで同様の場面を見つけたり、課題を解決したりしようとしている。 ②関数、変数の意味を理解している。 ②関数関係を見だし、「～は～の関数である」と表現できる。	【関】  【知】 【技】
3 ・ 4	③比例の意味を理解し、比例することからの変化の特徴を調べる。  ④変域の意味を理解し、変域を不等号を用いて表す。 ④ $x$ の変域や比例定数が負になる比例について、値の変化のようすを調べる。	③比例の特徴を、表や式を用いて見いだすことができる。 ③比例の意味、比例定数の意味を理解している。 ④変域の意味を理解している。 ④変数や比例定数が負の数になる場合について特徴を調べ、正の場合と同じ関係であるととらえることができる。	【考】  【知】 【知】  【考】

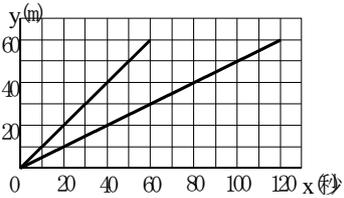
時	学習活動	評価規準	観点
5 6 7	⑤座標の意味を理解し、平面上の点の位置を座標によって表す。 ⑥比例のグラフをかく。 ⑦比例のグラフの特徴を調べる。	⑤座標の意味とその表し方を理解している。 ⑤平面上の点の座標を求めたり、2つの数の組を平面上の点で表したりすることができる。 ⑥グラフを、式をみたす点の集合であるとみることができる。 ⑥比例のグラフをかくことができる。 ⑦比例の特徴を、グラフを用いて見いだすことができる。	【知】 【技】 【考】 【技】 【考】
8 9	⑧1組の $x, y$ の値やから比例の式を求める。 ⑨比例のグラフから比例の式を求める。	⑧1組の $x, y$ の値から比例の式を求めることができる。 ⑨グラフから比例の式を求めることができる。	【技】 【技】
10 11	⑩反比例の意味を理解し、反比例することからの変化の特徴を調べる。 ⑪ $x$ の変域や比例定数が負になる反比例について、値の変化のようすを調べ、式で表す。	⑩反比例の特徴を、表や式を用いて見いだすことができる。 ⑪反比例の関係を、表や式に表すことができる。	【考】 【技】
12 13	⑫ $y = a/x$ のグラフの特徴を調べる。 ⑬ $y = a/x$ のグラフをかく。 ⑭1組の $x, y$ の値や反比例を表すグラフから反比例の式を求める。	⑫反比例の特徴を、グラフを用いて見いだすことができる。 ⑬反比例のグラフをかくことができる。 ⑭1組の $x, y$ の値やグラフから反比例の式を求めることができる。	【考】 【技】 【技】
14 15 16 17 本 時	⑮図形の面積や周について、比例、反比例の関係を調べる。 ⑯具体的な問題を、比例や反比例の見方や考え方を利用して解決する。 ⑰グラフと図形の融合問題を解決する。 ⑱比例のグラフをよみとって、具体的な問題を解決する。	⑭～⑰具体的な事象に関する問題について、比例、反比例の見方、考え方やグラフを利用して解決しようとしている。 ⑭数量の間の関係が比例か反比例か、あるいはどちらでもないかを調べることができる。 ⑮具体的な事象に関する問題を、比例や反比例の見方、考え方やグラフを活用して、解決することができる。 ⑯座標平面上に表された図形の面積や頂点の座標を、比例や反比例の式を利用して求めることができる。 ⑱グラフから、具体的な数量をよみとり、問題を解決することができる。	【関】 【技】 【考】 【考】 【考】
18 19	⑲章の問題に取り組む ⑳単元評価問題に取り組む		

5 本時の実際 (17/19)

(1) ねらい

比例のグラフを利用して、具体的な場面の問題を解決することができる。【考】

(2) 本時の展開

学習活動と予想される反応	形態	指導の留意点と評価
1. 本時のねらいと授業の流れを確認する。 2. 比例のグラフの特徴を確認する。 3. 問題を把握する。	一斉 一斉 一斉	T1)本時の授業で、グラフを利用して問題を解決できるようになりたいことを告げ、グラフに関する既習事項を確認する。 T1)動く歩道について、具体的に説明する。
<p>動く歩道は、長さが60mで、毎秒0.5mの速さで動いています。いま、ゆみさんが動く歩道に乗ると同時に、たくやさんが横の通路を毎秒1mの速さで歩き始めました。たくやさんはゆみさんより何秒前に、動く歩道の終わる地点に着きますか。</p>		
4. 問題を解決する <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらがたくやさんのグラフなの？</li> <li>・60秒で60m進む方がたくやさんだ。</li> <li>・時間を求める公式は(道のり)÷(速さ)だからそれぞれの時間がわかる。</li> <li>・グラフを見れば計算しなくてもわかるよ。</li> </ul>	個別 ペア	T1)グラフの見方を確認する。 T1)自力解決をさせる。 T1)どちらがたくやさんを表すグラフなのかを、理由をつけて答えさせる。 T2)グラフの見方がわからず手をつけられない生徒には個別に指導する。 T1・2)各自の考えを筋道立てて話せるよう、ペアでお互いの考え方を説明させる。 T1・2)計算式を使った生徒と、グラフを使った生徒を把握しておく。
5. 比較・検討する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフを利用すると簡単に求められる問題もあるんだね。</li> </ul>	一斉	T1)はじめに計算で求めた生徒の解答を紹介し、その後グラフを利用した生徒に解答を発表させる。 T1)グラフからわかることを説明させたり追加の問題を出して、グラフから解答を求めさせたりする。
6. まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○グラフを利用するとかんたんに解決する問題がある。</p> <p>○時間と道のりのグラフでは、傾きが大きいほど速さが速い。</p> </div>	一斉	T1)最初に質問したたくやさんのグラフについて、グラフを見ただけでわからないだろうかという補助発問をする。
7. 評価問題を解き振り返りをする。	個別	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           グラフから、具体的数量をよみとり、問題を解決している。【考】(評価問題)         </div>

# 授業プランシート (算数・数学)

授業日時：平成 26 年 11 月 5 日 (水) 5 校時  
 学年・単元：1 年・比例と反比例 (17 / 19)

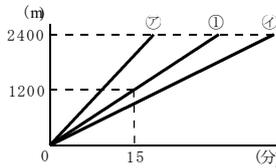
↓ 構想・立案の流れ

↑ 本時の授業の流れ

①本時のねらい  
 比例のグラフを利用して、具体的な場面の問題を解決することができる。

②ねらいを達成した子どもの姿 (評価規準)  
 グラフを利用して問題を解決したり、グラフの傾きが表す数量や大小関係を具体的な場面に即して説明したりする。【数学的な見方や考え方】

③評価問題



①のグラフは、A さんが家を 8 時に出発して、家から 2400m はなれた駅まで歩いたときの様子を表したものの。  
 (1) A さんの歩く速さ  
 (2) 駅に着いた時刻  
 (3) 歩く速さを遅くしたときのグラフはア、イのどちらか。理由も答えよ。

- (1)  $1200 \div 15 = 80$  80m/分
- (2) 比例の性質から 8 時 30 分
- (3) ①
  - ・同じ 2400m を進むのに時間が多くかかっているから
  - ・傾きが小さいから

④想定しているまとめ  
 ・グラフを利用するとかんたんに解決する問題がある。  
 ・時間と道のりのグラフでは、傾きが大きいほど速さが速い。

⑤想定している比較・検討

- (1) 時間と道のりのグラフで、2 本の直線が、たくやとゆみのどちらのものかを判断する。
- (2) 2 人の時間や距離の差を求める。
  - ・それぞれ計算で求めて比較する方法
  - ・グラフを利用して求める方法

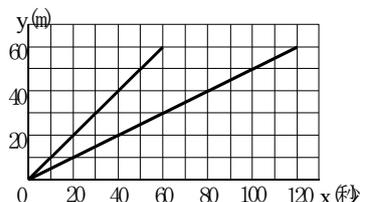
↑ 取り上げたい考え  
 (1)は問題に取りかかる前に考えさせ、まとめの段階でもう一度取り上げる。「見ただけでわかるのでは…?」と問う。  
 (2)は問題をの解答を発表した後で、追加の問題または「他にもわかることは?」と発問。

⑥想定している学習課題・学習のめあて  
 めあて グラフを使って問題を解こう

↑ 学習課題等の設定の工夫  
 速さの異なる 2 本のグラフを示し、どちらのグラフが誰のグラフかを考えるところからスタートする。

⑦学習問題

動く歩道は、長さが 60m で、毎秒 0.5m の速さで動いています。いま、ゆみさんが動く歩道に乗ると同時に、たくやさんが横の通路を毎秒 1m の速さで歩き始めました。たくやさんはゆみさんより何秒前に、動く歩道の終わる地点に着きますか。



# 国語科学習指導案（国語総合）

日 時 平成26年10月24日（金）6校時  
 場 所 1年2組教室  
 対 象 1年2組35名（男子18名・女子17名）  
 指導者 教諭 加藤 環  
 教科書 「国語総合」（第一学習社）

## 1 単元名 古代の史話「先従隗始」

## 2 単元の目標と評価規準

- （目 標）
- ・正しく書き下すことができる。
  - ・句形を正しく理解している。
  - ・話の展開を読みとり、隗の主張を理解することができる。

（評価規準）

A 関心・意欲・態度	B 話すこと・聞くこと	D 読むこと	E 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習をして授業に臨むことができる</li> <li>・作品に関心を持ち、学習に取り組むことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他人の意見を聞き、自分の意見と比較しながらまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正確に訓読することができる</li> <li>・登場人物の主張の意図を読み取ることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・句形をふまえた口語訳ができる</li> </ul>

## 3 生徒の実態

学習に対する意欲が高く、自分の意見を発表することにさほど抵抗感はない。漢文の学習では否定形・疑問形・反語形・使役形についてその都度取り上げているが、再読文字を含む文の書き下しでつまづく生徒も多い。漢字から意味をイメージして考えたり、登場人物の心情を考えたりする力はまだ定着していない。今回は句形、中でも抑揚形・反語形の効果について考えることで、隗の主張に迫らせたい。

## 4 単元の指導と評価の計画（全3時間）

時	授業内容	学習活動における具体的評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代背景や燕国の状況について知る。</li> <li>・「先従隗始」の意味を確認する</li> <li>・訓読のきまりに従って本文を書き下す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便覧や辞書等を活用し、時代背景や「先従隗始」の意味を知ろうとしているか</li> <li>・訓読のきまりに従い、正しく書き下すことができるか</li> </ul>	ノート 発表
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・句形について確認し、本文を口語訳する。</li> <li>・昭王のねらいを確認する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・句形を理解し、口語訳することができるか</li> <li>・本文から昭王のねらいについて考えることができるか</li> </ul>	発表 ノート 机間指導
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たとえられているものに注目し、抑揚形の効果を考える。</li> <li>・反語形に注目し、隗の主張を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・死馬骨と千里馬がそれぞれたとえているものを挙げるることができるか</li> <li>・隗の主張について理解しているか</li> <li>・弁舌の巧さから、隗の人物像について考えることができるか</li> </ul>	発表 机間指導 ノート

5 本時の計画

(1) 本時のねらい

- ・句形に注意して隗の主張を読み取り、隗の人物像について考えることができる。

(2) 学習過程

A 関心・意欲・態度 B 話す・聞く能力 C 書く能力 D 読む能力 E 知識・理解

	学習過程	学習活動	教師の支援
			指導上の留意事項および観点別評価と具体的な支援
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の確認をする</li> <li>・本時の目標を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭王のねらいを確認する</li> <li>・隗の発言に注目する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートを確認させる</li> <li>・隗の発言に注目させる</li> </ul>
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抑揚形に注目し、涓人のとった行動の真意について考える</li> <li>・隗の主張を整理する</li> <li>・隗の弁舌の巧さから人物像について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抑揚形で後の文が強調されることを確認し、涓人のねらいについて考える</li> <li>・死馬骨と千里馬がそれぞれ何をたとえているかを考える</li> <li>・隗の主張をまとめる</li> <li>・「先従隗始」の本来の意味や反語形の効果から、隗はどんな人物か考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法書を参照し、隣同士で確認させる</li> <li>・指名し発表させる</li> <li>・グループで話し合い、発表させる</li> <li>・抑揚形をふまえ、程度の高低について言及してまとめるよう助言する【B・C】</li> <li>・グループで話し合い、板書させる【B・D】</li> <li>※結果的に隗にも利益があることに気付くよう助言する</li> </ul>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容のまとめをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・句形の効果と隗の主張を確認する</li> </ul>	

## 平成26年度 研究授業 協議記録

日 時 : 平成26年10月24日(金)

教科・科目 : 国語

授業者 : 加藤 環

記録者氏名 : 斎藤竜二

### <授業者から>

- ・日々の授業を見て頂きたいとの思いで行った。グループに1人はセンスの良い生徒がおり、よくグループ活動をやらせている。脱線しないよう枠組みを設けることが課題。
- ・時間がおしてしまった。文法事項については復習とはいえ、一方的に説明してしまうことがあるので、生徒の心に残る文法の指導法についてご教授いただきたい。

### <参観者から>

#### 1. 教材・教具について

- ・後ろの黒板を使うことが新鮮だった。中学校にも欲しい。

#### 2. グループ活動について

- ・グループにすることで、互いの理解の不足しているところを教え合い、理解が深まるともに活性化した授業となっていた。
- しかし、グループを編成するタイミング、人数、役割分担については、より1人1人の思考を促し、主体的に活動させるために、再検討の必要がある。

#### 3. 言語活動の充実について

- ・授業内の「読む」「話す」「書く」のバランスがよかった。
- ・抽象的な言葉が出たときに生徒自身に更に説明させていた。
- ・意見の対立や支援があれば、より授業が活性化した。
- ・前時までの内容やあらすじをもう少し思い返す時間を授業のはじめに設定できればよかった。
- ・文中に2度登場する抑揚形の句法は少し性質が違う。その性質の違いを利用した発問を行えばもっと生徒の思考を揺さぶることができたのではないか。

#### 4. その他について

- ・先生の声がよく届き、解説も丁寧で、言葉を大切にしているのが伝わってきた。
- ・雰囲気がよい。日頃の指導の賜物である。
- ・授業者の疑問である文法事項の指導については最後に書き下し文を音読させることが効果的である。

## 数学 I 学習指導案

実施日 : 平成26年10月24日 (金) 6校時  
会場 : 秋田県立横手清陵学院高等学校  
クラス : 1年1組(男子12名、女子21名)  
学校名 : 秋田県立横手清陵学院高等学校  
指導者名 : 奥 健悦

- 1 単元名 数学 I 第4章 データの分析 5 データの相関
- 2 単元の目標 散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて2つのデータの相関を把握し、説明することができる。

### 3 指導に当たって

- (1) 単元観 2つの変量の関連を視覚的に捉える散布図を学び、その傾向を読み取る力を養う。また、相関関係の程度を数量的に表現する相関係数を学び、その値の意味するところを理解できるようにする。相関係数の定義式については参照程度にとどめ、具体的な問題に活用するため、値を求められるようにすることと、正・負の相関の強さの読み取れることを重視して指導する。

単元計画	第5章 「データの分析」 9時間 (教科書: 数研出版 新編数学 I)
	1 データの整理 . . . . . 0. 5
	2 データの代表値 . . . . . 1
	3 データの散らばりと四分位数 . . . . . 1. 5
	4 分散と標準偏差 . . . . . 2
	5 データの相関 . . . . . 2 (本時 1 / 2)
	A 散布図 B 正、負の相関 C 相関係数
	章末問題 . . . . . 2

- (2) 生徒観 授業に熱心に取り組む生徒や活発に発言する生徒が多い。しかし、基礎的な計算に難儀し、授業の進度について行くのがやっとの生徒もいる。グループで活動する授業では、数学に苦手意識をもつ生徒も、積極的に問題解決に関わる姿が見られる。

- (3) 指導観 2つのデータの関連性を相関関係から考えてゆく。散布図という視覚的に表現された図から関連性を読み取る力と、相関係数という数値から関連性を読み取る力の両方を育むような授業構成を意識した。相関係数の計算では、式の計算だけで求めるのが困難な生徒も多いため、表を用いて求めることにした。

- 4 本時の学習活動 データの値から、散布図を作成し相関係数を求めて、相関関係を考えてゆく。散布図と相関係数から、データの関連性を読み取り、考察をまとめ発表する。

- (1) 本時の学習目標 (評価規準) **【数学への関心・意欲・態度】**  
グループで協力して課題に取り組み、自らの役割を積極的に果たそうとする。  
2つの変量間の関連性について考察し、まとめたことを発表できる。

- 【数学的な知識・理解】**  
散布図と相関関係、相関係数の基礎的な知識を身につけており、それを課題解決に活用しようとする。

- (2) 本時の指導にあたって 散布図の作成、相関係数の導入、グループ学習、まとめの発表と、指導内容が多く板書による説明だけでは授業時間内に収めることが困難である。そのため内容を軽く扱える箇所は、プロジェクターによる黒板への投影等により済ませることにした。  
また、言語活動の充実のためグループ活動を導入したが、散布図を作成する生徒や相関係数を求める生徒、発表する生徒などに役割分担をし、複数の人間が協力し合い1つの問題をするような授業構成にした。結果をもとに考察する場面では全員で考えを出し合うことにした。  
問題の種類を4パターン出題する。相関係数が同じであっても散布図の直線の傾きが異なる場合があり、それを紹介するためである。

(3) 指導過程 {評価の観点・・・①関心・意欲・態度 ②見方・考え方 ③技能 ④知識・理解}

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 (20分)	本時の目標の確認		
		目標 2つのデータ間の相関関係を調べる方法として散布図と相関係数を利用する。	
		教科書P.171からP.173 1.3までの説明	
		問題 表は、ある陸上部員20人について、変数 $x$ 、 $y$ からなるデータである。 $x$ は身長、 $y$ は体重である。身長と体重の値を座標とする点を平面にとり、図で表した。表のデータのうち、①～⑮までの座標を図に書きこんでいる。残りの⑯～⑳のデータを座標とする点を図に書き入れよ。	
		問題の散布図から読み取れる傾向について考えさせ言葉でまとめる。 正の相関・負の相関の確認をする。(投影) 相関係数の求め方、値の判断の仕方を確認する。(投影)	(評価①)
展開1 (15分)		発問 次の表は10人の生徒に10点満点の2種類のテストA, Bを行った結果である。A, Bの得点の相関係数を求めよ。またこれらの間にはどのような相関があると考えられるか。(上述のような問題を4パターン準備する) (1) グループで役割分担をする。 ①散布図を作成する生徒 ②相関係数を計算する生徒 ③発表する生徒 (2) 散布図を作成し、相関係数を求める。 (3) 出てきた結果をもとに、全員でデータの相関を考える。 (4) 発表用の学習シートにまとめる。	
展開2 (10分)	発表	①4つのグループが発表する。(全パターン) ・何と何についてのデータかを述べる。(投影) ・散布図と相関係数を提示する。(投影) ・相関の様子について発表する。(発表)  ②相関係数がほぼ等しくなったデータ同士の散布図の比較をする。	(評価①) 発表方法は学習シートに例示しておく。  散布図の点の描く直線の傾きと相関係数の値は関係が無いことに触れる。
整理 (5分)		1. 本時の要点を学習シートに記入する。 2. グループ活動への取り組みの自己評価をする。	(評価④)

(4) 本時の評価

評価項目	評価の視点 [判断基準]		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる[A]	おおむね満足できる[B]	
数学への関心・意欲・態度	グループ活動の結果を学習シートにまとめている。自分の考察をまとめ、発表の準備をしている。	グループ活動の結果を学習シートにまとめている。友人の意見などをメモしている。	グループ内の友人のアドバイスを聞きながら作業をするように促す。
数学的な知識・理解	学習シートに課題の散布図や相関係数を求める過程が書かれている。本時の要点を整理し、記述している。	学習シートに本時の目標が記入している。本時の要点を自分なりに整理し記述している。	グループ内の友人と本時の要点について話し合わせる。

## 平成26年度 研究授業 協議記録

日 時 : 平成26年10月24日(金)

教科・科目: 数学

授業者 : 奥 健悦

記録者氏名: 佐々木 公 (数学①班)

### <授業者>

- ・多くのことを1つの授業につめこみすぎた
- ・生徒が発表する場を作りたかった
- ・パソコンを使った授業は時々行っている
- ・散布図と表を使って相関係数を求めるねらいにした

### <藤原指導主事>

- ・今日のねらいが何だったのか
- ・最後に生徒が、どう答えればよいかを明確に
- ・時間の使い方に気をつける(グループ学習ならなおさら)
- ・生徒の時間を保障する

### <よかった点>

- ・ICTの活用(時短、黒板に直に写す、生徒のシートを写す、など)
- ・授業の流れを生徒に示してスタート
- ・生徒同士で話し合う雰囲気
- ・自分の言葉で発表している
- ・つぶやきを取り上げて授業にいかす

### <改善点>

- ・プロジェクターで写した字が小さい、見づらい 黒板に写せるプロジェクターがあればよい
- ・技能面に偏りすぎ、もっと意味を考えさせる場面が必要
- ・生徒の発表をいかして「正の相関」を出したい
- ・指名が多かったが、まず全体への問いかけをしたい
- ・ねらいを達成できるよう問題の数値にも気を配るとよい
- ・グループ学習の役割や時間を明確にする
- ・出てきた値の数学的意味を理解する場面がなかった
- ・発表に対する意見や感想もあればよい

## 平成26年度 研究授業 協議記録

日 時 : 平成26年10月24日(金)

教科・科目: 数学

授業者 : 奥 健悦

記録者氏名: 大越晋子(数学②班)

### <良かった点や改善点>

- ① 教材をうまく活用しており、生徒もうまく活動できていた。
- ② グループ作業のあと、各班の意見を全員に示せる形にすれば良かった
- ③ 本時のねらいがやや曖昧であった。
- ④ 個々の単元がセンター試験や個別検査でどのように出題されるか研究していきたい。
- ⑤ 生徒はいろいろな計算や考え方をしているものだということが分かり、今後はこのことを頭に入れつつ、授業に臨みたい。
- ⑥ 相関が強い、弱い定義は、生徒からの意見をうけ、最後に教師が言えば良かった。
- ⑦ 2時間の内容を1時間でやったので、前半部分を教師が5～6分でまとめ、残りをメインにすれば、もっと言語活動が充実したと思う。

## 外国語科学習指導案（英語）

実施日：平成 26 年 10 月 24 日（金） 6 校時

会 場：秋田県立横手清陵学院高等学校

クラス：1 年 4 組（男子 27 名・女子 8 名）

指導者：鈴木 愛梨

1 教科・科目：外国語科・コミュニケーション英語 I

2 単元名：Lesson 5 Saki's First Trip to Australia 教科書：Compass English Communication I（大修館）

3 単元の目標

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材に関心を持ち、教師の問いに対し積極的に答えている。</li> <li>・お互いに協力しながら、ペアやグループでの言語活動に積極的に取り組んでいる。（観察）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだ表現を活用しながら、指定された分量で自分の意見を表現できる。</li> <li>・発音、アクセント、イントネーション、区切りなどに注意して発表できる。（口頭試験・定期考査）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語句や表現、文法事項などの知識を活用して本文の内容を的確に理解することができる。</li> <li>・発表を聞いて、概要を理解することができる。（観察・定期考査）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶、相槌、質問などの表現や、文法事項（現在完了、間接疑問）を理解し、正しく使うことができる。（口頭試験・定期考査）</li> </ul>

4 単元の指導計画（全 6 時間）

1 時間目：Part1 内容理解・表現活動

4 時間目：Part4 内容理解・表現活動

2 時間目：Part2 内容理解・表現活動

5 時間目：Part1~4 の表現活動のまとめ

**3 時間目(本時)：Part3 内容理解・表現活動**

6 時間目：文法や文構造の運用練習

5 生徒の実態

英語に苦手意識をもつ生徒もいるが、授業に熱心に取り組む生徒や活発に発言する生徒が多い。4 月当初からペアワークやグループワークを多く取り入れ、意見を発表したり、交換したりする機会を多く設けてきた。それに伴い、間違いを恐れたり、発言をためらったりする生徒が少なくなってきたように思われる。また難易度の高い問題を与えると、生徒同士で協力して問題解決を図るなど、学び合いの場も多く見られる。

6 本時の実際（本時 3 / 6）

(1) 本時のねらい

初対面の人と会話をする際のテクニックを学び、英語で 1 分間以上会話をすることができる。

(B,D：発表)

評価の観点＝【A：コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 【B：外国語表現の能力】  
【C：外国語理解の能力】 【D：言語や文化についての知識・理解】

(2) 学習過程

過程	教師の活動 ・指導上の留意点	生徒の学習活動	学習形態	4 技能
導入 5分	1. Part1,2 の内容に関する問いかけをする。	1. Part1,2 の内容について教師の問いかけに答える。	1. 全体	S
	2. 初対面の人との会話の映像を見せる。 ・会話が成立している映像と、成立していないものを見せ、会話が成立するために必要な条件に気付かせる。	2. 初対面の人との会話の映像を見て、会話が成立するために必要な条件を指摘する。	2. 全体	SL
展開① 15分	3. 初対面の人と会話をする際のテクニック（相槌、質問、コメント等）をまとめる。	3. 初対面の人と会話をする際のテクニック（相槌、質問、コメント等）を指摘しながら、クラス全体で確認をする。	3. 全体	SL
	4. それぞれのテクニックを用いながら、ペアで1分間英会話をさせる。 ・その都度、重点的に取り混ぜるテクニックを絞り、生徒の負担を軽減する。  ・机間巡視を行い、適宜助言をする。	4. それぞれのテクニックを用いながら、ペアで1分間英会話をさせる（ペアを変えながら6回練習する）。	4. ペア	SL
展開② 10分	5. 参観している英語科の教員1人＋生徒5人の組を7組つくり、教員や他の生徒らと英会話をさせる。「この人ともっと話したいな」という気持ちになったら、電話番号が書かれたカードを相手に渡すよう指示をする。	5. 同じグループの英語科教員や他の生徒らと英会話をさせる。 (電話番号が書かれたカードを多くもらえるように、魅力的な英会話にする必要がある。)	5. グループ	SL
評価の観点：初対面の人と会話をする際のテクニックを学び、英語で1分間以上会話を行うことができる。(B,D：発表)				
展開③ 15分	6. 教科書の Part3 の内容を読ませ、早紀とミンホの会話について評価をさせる。	6. 早紀とミンホの会話の中に学んだテクニックが含まれているかどうかを基に、二人の会話について評価する。	6. 個人	R
	7. 初対面の会話にふさわしい内容にできるよう、ペアで早紀とミンホの会話に情報を補足させる。	7. 初対面の会話にふさわしい内容にできるよう、ペアで早紀とミンホの会話に情報を補足する。	7. ペア	S
	8. ペアで考えた早紀とミンホの会話を、グループで発表させる。	8. ペアで考えた早紀とミンホの会話を、グループで発表しあう。	8. グループ	SL
まとめ 5分	9. 発表した内容をワークシートに記入させる。	9. 発表した内容をワークシートに記入する。	9. 個人	W

評価の観点＝【A：コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 【B：外国語表現の能力】  
 【C：外国語理解の能力】 【D：言語や文化についての知識・理解】

## 平成26年度 研究授業 協議記録

日時 : 平成26年10月24日(金)

教科・科目 : コミュニケーション英語 I

授業者 : 鈴木 愛梨

記録者氏名 : 萩原勢津子(英語①班)、石川 博基(英語②班)

### <英語①班>

#### <良い点>

- ・導入でビデオを使って生徒を引きつける → 会話の違い、pointに気づきやすい
- ・十分な会話練習 → 笑顔でペアワーク、グループワーク
- ・指示・あいさつの英語力がクリアで分かりやすいので生徒が集中して聞いている
- ・英語での問いかけへの生徒の反応がよい → 日常での使用があることがわかる

#### <改善点>

- ・会話・言語活用の評価 → 新しく得た情報をメモし、評価につなげる
- ・簡単な指示は英語の方が集中して聞けるようだ。
- ・パターンプラティスは5回+グループ活動

会話の内容を発展させたい

### <英語②班>

#### <良い点>

##### 1) 事前の工夫

プリント、段階練習、練習設定(会話の続きを考える、等)が工夫されている。  
映像による「ねらい」の提示がわかりやすい。

##### 2) 活動について

生徒が全員参加し、活発に活動している。

##### 3) ねらいについて

key point を活動後にも振り返ることで、定着を図っていた。

##### 4) 授業の運営

全体への目配りが良い。教師の声のトーンや表情がよく、クラスの雰囲気が作られていた。

#### <今後の課題となる点>

##### 1) 教師・生徒の英語使用

生徒に英語を使わせる工夫を増やすこと、教師の英語使用を増やすことが必要。

##### 2) 活動を深めるために。

- ・会話の時間を2分に設定すると、より会話の内容が深まったのではないかと。
- ・生徒によっては、目線があがらない人もおり、対処が必要であった。
- ・自然なアイコンタクトを理解させる必要があった。
- ・まとめのワークシートを書かせる時間を確保すべきだった。

A: Hi, what's your name?

B: I'm Eri. What's yours?

A: I'm John. Where are you from?

B: I'm from Japan. How about you?

A: I'm from Ireland.

B: Which part of Ireland are you from? (Where in Ireland?)

A: I'm from Dublin. That's the capital of Ireland.

B: Oh you are from Dublin? That's good! I want to go there someday.

A: You should! By the way, what is your hobby?

B: I like to listen to music.

A: What kind of song do you like?

B: I like J-pop.

A: Like what?

B: Like AKB48 and Arashi.

A: Oh really? Their songs are very good!

A: Have you tried the fried potatoes?

B: No, I haven't. Are they good?

A: Yes, they taste good! You should try that!

B: Ok, I will.

A: Hi, I'm Eri. What's your name?

B: I am Miku.

A: Nice to meet you, Miku!

B: Nice to meet you.

A: Where are you from?

B: I'm from Japan.

A: Oh, are you from Japan? I'm from Japan too! Where in Japan?

B: I'm from Yokote city in Akita. How about you?

A: I'm from Akita city!

B: Really? That's very close.

A: Yes, they are very close! What do you do there?

B: I go to the high school there. How about you?

A: I go to the high school in Akita city! What subject do you like the best?

B: I like English the best! How about you?

A: I like English too!

B: What do you like to do in your free time? (What's your hobby?)

A: I like to listen to music.

B: What kind of music do you like?

A: I like J-pop.

B: Like what?

A: Like AKB48 and Arashi.

B: AKB48 and Arashi? They are very good!

A: Yes they are!

A: Have you tried \_\_\_\_\_?

B: No, I haven't. Are they good?

A: Yes, they taste good! You should try that!

B: Ok, I will.

A: Hi, I'm \_\_\_\_\_. \_\_\_\_\_?

B: I am \_\_\_\_\_.

A: Nice to meet you, \_\_\_\_\_!

B: Nice to meet you.

A: \_\_\_\_\_?

B: \_\_\_\_\_.

A: Oh, \_\_\_\_\_? \_\_\_\_\_! \_\_\_\_\_?

B: \_\_\_\_\_.

A: \_\_\_\_\_!

B: \_\_\_\_\_?

A: Yes, they are very close! What do you do there?

B: I go to the high school there. How about you?

A: I go to the high school in Akita city! What subject do you like the best?

B: I like English the best! How about you?

A: I like English too!

B: What do you like to do in your free time? (What's your hobby?)

A: I like to listen to music.

B: What kind of music do you like?

A: I like J-pop.

B: Like what?

A: Like AKB48 and Arashi.

B: AKB48 and Arashi? They are very good!

A: Yes they are!

# 1

Class: No: Name: \_\_\_\_\_

A: Hi, I'm ○○. What's your name?

B: I am □□.

A: Nice to meet you, □□!

B: Nice to meet you, too.

A: Where are you from?

B: I'm from ~.

A: Oh, really?

B: How about you?

A: I'm from ~.

What do you do in Japan?

B: I'm a high school student!

And you?

A: I'm also a high school student!

B: Oh, I see.

What is your hobby?

A: I like to listen to music.

B: Who is your favorite singer?

A: I like ☆☆.

B: Great! I like that singer, too!

A: What is your hobby?

B: I like to play basketball.

A: That sounds good!

How often do you play it?

B: I play it every day.

A: Every day? That's very hard!

## 2

Class: No: Name: \_\_\_\_\_

A: Hi, I'm ○○. What's your name?

B: I am □□.

A: Nice to meet you, □□!

B: Nice to meet you, too.

A: Where are you from?

B: I'm from ~.

A: Oh, really?

B: How about you?

A: I'm from ~.

What do you do in Japan?

B: I'm a high school student!

And you?

A: I'm also a high school student!

B: Oh, I see.

What is your hobby?

A: I like to listen to music.

B: Who is your favorite singer?

A: I like ☆☆.

B: Great! I like that singer, too!

A: What is your hobby?

B: I like to play basketball.

A: That sounds good!

How often do you play it?

B: I play it every day.

A: Every day? That's very hard!

### 3

Class: No: Name: \_\_\_\_\_

A: Hi, I'm ○○. (あなたの名前は) ?

B: I am □□.

A: Nice to meet you, □□!

B: Nice to meet you, too.

A: (あなたの出身地は) ?

B: I'm from ~.

A: Oh, really?

B: (あなたは) ?

A: I'm from ~.

(日本で何をしていますか) ?

B: I'm a high school student!

(あなたは) ?

A: I'm also a high school student!

B: Oh, I see.

(あなたの趣味はなんですか) ?

A: I like to listen to music.

B: (好きな歌手は誰ですか) ?

A: I like ☆☆.

B: Great! I like that singer, too!

A: (あなたの趣味はなんですか) ?

B: I like to play basketball.

A: That sounds good!

(どのくらいの頻度でバスケをしますか) ?

B: I play it every day.

A: Every day? That's very hard!

4

Class: No: Name: \_\_\_\_\_

A: Hi, I'm ○○. (あなたの名前は) ?

B: I am □□.

A: Nice to meet you, □□!

B: Nice to meet you, too.

A: (あなたの出身地は) ?

B: I'm from ~.

A: Oh, really?

B: (あなたは) ?

A: I'm from Japan, too!

(日本で何をしていますか) ?

B: I'm a high school student!

(あなたは) ?

A: I'm also a high school student!

B: Oh, I see.

(あなたの趣味はなんですか) ?

A: I like to listen to music.

B: (好きな歌手は誰ですか) ?

A: I like ☆☆.

B: **Great!** I like that singer, too!

A: (あなたの趣味はなんですか) ?

B: I like to play basketball.

A: **That sounds good!**

(どのくらいの頻度でバスケをしますか) ?

B: I play it every day.

A: **Every day?** That's very hard!

Lesson5 Part3

**Exercise1: Read part3 (p.64) and evaluate Saki's conversation with Min Ho.**

Q1. Do you think Saki had a good conversation with Min Ho?

Q2. Why do you think so?

Q3. What can she do more to improve the conversation?

**Exercise2: Continue the conversation between Min Ho and Saki.**

Mandy: Saki, this is Min Ho, my classmate. Min Ho, this is Saki from Japan.

Min Ho: Nice to meet you, Saki. I'm a fan of anime.

S a k i : Really? I love anime too!

\_\_\_\_\_

Min Ho: \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

S a k i : \_\_\_\_\_

# 保健体育科学習指導案（保健）

日 時 平成26年10月24日（水）6校時  
 場 所 1年3組教室  
 対 象 1年3組35名（男子19名・女子16名）  
 指導者 教諭 金森 道  
 教科書 現代高等保健体育（大修館）、同ノート

## 1 単元名 精神の健康 「ストレスへの対処」

## 2 単元の目標と評価規準

### （目 標）

心と体の密接な関わりについて理解するとともに、精神の健康を保持増進するために、欲求やストレスへの適切な対処と自己実現を図ることが重要であることを理解できるようにする。

### （評価規準）

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
日常の経験と重ね合わせて課題を発見しようとする。	ストレスへの対処方法を自分なりに考えている。	心と体は密接な関連を持っていることについて書き出している。

## 3 生徒の実態

生徒にとって「ストレス」は日常よく耳にしたり、経験したりする心身の状態である。従って、日常の生活経験からこのことについて課題を見つけることは容易であると考えられる。またこれまでの学習から、心と体は密接に関連していることを理解し、「手に汗をにぎる」「緊張すると心臓がドキドキする」等の例を挙げることもできている。一方で、ストレスを感じてもそのまま過ごしたり、対処方法が限られていたりする場面が見受けられる。ストレスと上手に向き合う、解決する等の対処方法を学び、自身の生活に取り入れていくための資質が必要であると考えられる。

## 4 単元の指導と評価の計画（全8時間）

時	授業内容	学習活動における具体的評価規準	評価方法
2	欲求と適応機制	精神機能は脳によって営まれていることや、欲求や適応機制について理解できている。	学習シート 観察
2	心身の相関	心と身体は密接な関係にあることや、相互の影響を理解し、自律神経系や内分泌系など多様な器官が関わっていることを考える事ができている。	学習シート 観察
2 (本時 1/2)	ストレスへの対処	ストレスの内容や原因について理解し、その対処方法や受け止め方を考えたり実践しようとしている。	学習シート 観察
2	自己実現	高次の欲求であることと、その充足が精神の健康に関わっていることを理解し、実生活に反映させようとしている。	学習シート 観察

5 本時の計画

(1) 本時のねらい

ストレスへのさまざまな対処法を理解し、実生活に活かしていけるようにする。

(2) 学習過程

【A】 関心・意欲・態度

【B】 思考・判断

【C】 知識・理解

学習過程	学習活動	教師の支援	
		指導上の留意事項	観点別評価と具体的支援
導入 10分	ストレスチェック ・プリントで各自のストレスをチェックする。	・自分自身の結果を相対化して理解させる。 ・ストレスラーが多様多岐にわたることを気づかせる。	
発展 35分	<p>本時の目標確認</p> <p>・目標を確認しノートに書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">                     自身のストレス解消法について考えよう                 </div> <p>ストレス対処法についてのグループワーク</p> <p>・自分のストレス対処法について紹介し、グループ内で共有する。 ・グループ内で数例をクラスへ提示する。</p> <p>対処方法の確認</p> <p>・提示されなかった方法について確認する。 (1)原因を除くこと (2)とらえ方を変えること (3)趣味、リラクセーション (4)相談</p>	<p>グループ内、または他班の意見を自らの対処法への参考にするよう意識させる。</p> <p>生徒の具体例と関連づけて説明し、理解できるようにする。</p>	<p>ストレスへの対処方法を自分なりに考えている。</p> <p>【B】 グループ内の例を参考に、自身の対処法を考えられるようにする。</p>
整理 5分	本時の整理と次時の確認	・出された対処方法を基に心の健康を保つための自分なりの方法を考える。	心の健康が「自己実現」の活力になることを確認する。

## 平成26年度 研究授業 協議記録

日 時 : 平成26年10月24日 (金)

教科・科目 : 保健

授業者 : 金森 道

記録者氏名 : 高橋隆太郎

### <良い点>

- ・講義タイプになりそうな時も、生徒に話をふり、意見を求めるなどの工夫がみられた。
- ・活発な話し合いが行われた。
- ・グループの形での意見交換はとても生徒たちの意見を引き出すのに適していた。
- ・自分のエピソードは注意をひいていた。
- ・自分の考えをまとめる時間を十分にとっている。
- ・客観的な点数で自分の状態を理解するのはイメージしやすくよい。
- ・プリントで自分の状態を確認してから、めあてを知ること、授業の見通しをもてたり、理解を深められる。
- ・最終的な目標に対してのアプローチを意識しており、わかりやすかった。
- ・ストレス対処法の例が生徒目線で見やすい。

### <改善点>

- ・ストレス対処法に対して、生徒の考えを最後にグループで話をさせたら、考えが深まるのではないかな。
- ・出てきた意見をどのように整理するかがポイントになりそうだが、方向性が見えづらかった。
- ・グループワークをやる前から、グループを作れば発問もどんどん活発になるのではないかな。
- ・グループワークの流れを先に書いたほうが見通しを持てるのではないかな。
- ・板書を一斉に行う場合には、マス割より、縦割りのほうが良い。

## 総合技術科「情報技術基礎」学習指導案

日 時 平成26年10月24日(金) 6校時  
 場 所 高度設計実習室(3D-CAD)  
 対 象 総合技術科 1年5組(男子28名・女子7名)  
 指導者 佐藤三雄  
 教科書 情報技術基礎(実教出版)

- 1 単元名 第1章 産業社会と情報技術  
6節 情報化社会の権利とモラル

2 単元の目標と評価規準

(目 標) 知的財産権、プライバシーの保護、ネチケットなど自分と他人の権利を守ることやモラルの重要性を理解させる。

(評価規準)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
知的財産権、プライバシーの保護、コンピュータウイルスおよびそれらの対策などに関心を持ち、意欲的に学習に取り組む、学習態度は真剣である。	情報化社会で守るべきモラルについて具体的に考え、互いに意見を述べたり発表したりできる。	情報化社会で守るべきモラルについて、法的な根拠などを調べ、報告書にまとめることができる。	知的財産権の内容について理解している。 情報化社会が進展するにつれ、守らなければならないモラルが重要であることを理解している。

3 生徒の実態

情報技術に関する興味・関心が高い生徒が多く、授業への取り組みも意欲的である。発問に対して、しっかりと考えて発言する。

ほとんどの生徒がスマートフォンを所持しており、情報化社会の権利やモラルについて基本的事項を理解していると考えられる。いろいろな事例について対処できる判断力を身につける必要がある。

4 単元の指導と評価の計画(全2時間)

時	授業内容	評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産権</li> <li>・使用許諾契約</li> <li>・プライバシーの保護</li> <li>・個人の責任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産権、プライバシーの保護などに関心を持ち、意欲的に学習に取り組む【関心・意欲・態度】</li> <li>・知的財産権、プライバシーの保護、個人の責任の内容について理解している【知識・理解】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観察</li> <li>プリントの記入状況、</li> <li>○発問</li> </ul>
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事例について、根拠を調べ、どう対処すべきか考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化社会で守るべきモラルについて具体的に考え、互いに意見を述べたり発表したりできる。【思考・判断・表現】</li> <li>・情報化社会で守るべきモラルについて、法的な根拠などを調べ、報告書にまとめることができる。【技能】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観察、発表、</li> <li>ワークシートの記入状況、話し合いの状況</li> <li>○報告書</li> </ul>

5 本時の計画

(1) 本時のねらい

- ・情報化社会で守るべきモラルについて、具体的に考え、互いに意見を述べたり発表したりできる。  
【思考・判断・表現】
- ・情報化社会で守るべきモラルについて、法的な根拠などを調べ、報告書にまとめることができる。

【技能】

(2) 学習過程

学習過程	学習活動	教師の支援	
		指導上の留意事項	評価の観点と評価方法
<b>【導入…5分】</b> ・前時の復習 ・本時の説明	・前時の復習を行う。 ・本時の目標と学習内容を確認する。	・情報化社会の権利について習得状況を確認する。(知的財産権、プライバシー保護)	
・各事例について、根拠を調べ、どう対処すべきか考えよう。			
<b>【展開…35分】</b> ・メール、電子掲示板でのマナー ・個人情報の保護 ・他人の権利を守る著作権など	・メール、電子掲示板でのマナーについて考える。 ・個人情報保護について、事例で誤っている場合、その理由と対応策を考える。 ・著作権などについて、適切でない場合、その理由を考える。また、どの権利が侵害されているか考える。 ○協同学習により、対処を考える(グループ協議、発表) ① 各自が考えてシートに記入する。 ② グループ内で各自の考えを、互いに述べ、話し合い、考えをまとめる。 ③ 各グループから発表を行う。	・日常生活と同様に相手への配慮が必要であり、ネチケットやモラルが必要であることを確認させる。 ・教科書の関連ページや補助資料を参考にして、その理由や法的根拠を考えさせる。 <グループ協議について> ・1グループ4人とする。 ・司会、記録、発表者を割り当てる。 ・話し合いの過程などもメモに残すようにアドバイスする。 ・机間指導により、グループでの話し合いの様子を観察し、スムーズに行われるように援助する。 ・2～3のグループの発表を行い、全体で意見交換する。	各事例について自分の考えを述べることができ、グループの考えをまとめて発表できる。 【思考・判断・表現】 ワークシートの記入状況、話し合いの状況 理由や法的根拠を簡潔にまとめている。 【技能】 ワークシートの記入状況
<b>【整理…10分】</b> ・まとめと自己評価	・本時の要点をまとめ、学習内容を整理する。 ・本時の取り組みを自己評価する。	・各事例でのポイントを確認する。 ・次回の予告を行い、次回の準備を促す。	

(3) 学習活動に即した評価規準

学習活動に即した評価規準	十分満足できる状況[A]	努力を要する状況 [C] 生徒への支援
[思考・判断・表現] ・自分の考えを述べることができ、話し合いにより、グループの考えをまとめて発表できる。	・自分の意見や他の意見を記述し、グループ協議の過程を説明しながら、グループの考えをまとめ、発表できる。	・考えるポイントやヒントを与え自分の意見を述べるよう促す。
[技能] ・ワークシートに理由、法的根拠が簡潔にまとめている。	・ワークシートに、理由や法的根拠がきちんとまとめられており、本時の要点が丁寧に整理されている。	・関連ページを示して、理由や法的根拠を考えられるように促す

## 平成26年度 研究授業 協議記録

日 時 : 平成26年10月24日(金)

教科・科目: 情報技術基礎(工業科)

授業者 : 佐藤三雄

記録者氏名: 松井泰紀(工業科①班)、川崎知之(工業科②班)、渡辺 真(工業科③班)

### <工業科①班>

- ・パソコン教室を使用した理由は何か → 視聴覚機材を使うため。
- ・実物投影機を使い、やるべき行動を確実にしていた。
- ・専門用語の確認に実物投影機を使用すればよい。(生徒が掲載ページにたどりつけていない)
- ・グループ討議は対面式がよいと思う。横1列式はコミュニケーションが取りにくい。
- ・導入はプレゼンソフトの活用して、スピーディでわかりやすかった。
- ・自己評価で判断、説明に使用する語群を増やすとよい。
- ・事故、失敗談などを活用するとよい。
- ・発表者の声が小さい。
- ・発表者が立ちっぱなしであった。
- ・個人意見を確認できる。
- ・言わせっぱなしではなく、コミュニケーションがあっても良かったのではないか。
- ・指導内容がグループごとになっており、伝わっていない。

### <まとめ>

- ・センターモニターやプレゼンソフト、実物投影機の活用から、導入(復習)が多いものの、スピーディで、かつ、わかりやすい。
- ・個人意見を出しながらも、考え抜かれた教材から、自分も客観的に考えに対して見つめることができている。
- ・普段もの静かなクラスで、本時も声が小さかったが、自分の役割や討論姿勢から成長がうかがわれた。

### <工業科②班>

- ・「情報化社会の権利とモラル」という本時の内容は、工業人としてのモラルの醸成や、社会に貢献できる資質及び能力を育成する上で、とても重要なものであり、まず、学習内容の素晴らしさや優れた指導過程について話し合われた。
- ・生徒は落ち着いた学習姿勢で、普段から授業規律が保たれていると感じた。
- ・言語活動も充実しており、本時の目標を十分に達成されていると話し合われた。ただ、本時のまとめ方について、工夫があっても良かったのではないかという意見があった。

**<工業科③班>**

- ・講義形式より良かった。
- ・もっと、実例（書き込みの例、事件とか、罰金など）の紹介を入れると良い。
- ・教科書に載っていない情報（事件の紹介）を入れると良い。
- ・パワーポイントの配色が良かった。
- ・これまでの指導が行き届いている。
- ・教師と生徒とのやりとり（発表の方法）
- ・プロジェクタとスクリーンを使えば、教室でも良かったのではないか。コンピュータ室では話合い活動がやりにくいようであった。

## 2 SSHのあゆみ（5年次）

## 平成26年度 スーパーサイエンスハイスクール研究開発の成果と課題

S S H推進部

### ○今年度の主な事業

日時	事業内容	場所	対象者
5月23日	運営指導委員会①	秋田県庁	運営指導委員
5月27日	探究特別レクチャー	本校 清陵ホール	高校2年生普通科国人
5月28日	サイエンスカフェ①	本校 図書館	全校希望者
6月12日	国内研修①	秋田県湯沢市	高1サイエンス探究
6月14日	第1回 スーパーサイエンスレクチャー	本校 清陵ホール	全校希望者
7月25日	清陵☆わくわくサイエンス①	横手市田根森小学校	地域児童・中
8月6日	SSH生徒研究発表会	神奈川県横浜市	自然科学部
8月11日	中学生サイエンスキャンプ	秋田市	中3希望者
8月16日	SSH海外研修	台湾	高2サイエンス探究
9月9日	「探究」中間報告会	本校 コンピューター室	高2普通科
10月1日	第2回 スーパーサイエンスレクチャー	本校 第1体育館	全校
10月19日	清陵☆わくわくサイエンス②	本校 理科室	地域児童・中
11月8日	秋田県理科研究発表大会	秋田大学	自然科学部, 高2理系
11月12日	「探究」発表会	本校 第1・第2体育館	高2普通科
11月12日	運営指導委員会②	本校 会議室	運営指導委員
12月9日	第3回 スーパーサイエンスレクチャー	本校 清陵ホール	高2普通科 高1サイエンス
12月10日	サイエンスカフェ②	本校 図書館	地域住民・生徒希望者
12月13日	東北植物学会	山形大学	自然科学部
1月8日	国内研修②	関東方面 (未来館・つくば)	高1希望者
1月24日	東北・北海道地区SSH指定校発表会	岩手県花巻温泉	高2サイエンス探究
2月3日	サイエンスダイアログ	本校 会議室	高2サイエンス探究
2月14日	秋田県SSH指定校合同発表会	秋田市 にぎわい交流館AU	高2普通科
3月15日	あきたサイエンスカンファレンス	カレッジプラザ (秋田市)	高2サイエンス探究
3月18日	探究事前レクチャー	本校 清陵ホール	高校1年生
3月20日	日本天文学会 ジュニアセッション	大阪大学	高2サイエンス探究



高2「探究」特別レクチャー  
国際教養大学 猪俣さん



高校1年生 国内研修①ゆざわジオパーク



第1回スーパーサイエンスレクチャー  
 自然をヒントにした発明・発見  
 考え方と学ぶことの素晴らしさ  
 利部 伸三 先生



中学3年生 サイエンスキャンプ  
 男鹿ジオパークと秋田大学天文観察



全国SSH生徒研究発表会（横浜）



SSH台湾研修



第2回スーパーサイエンスレクチャー  
 癌医療の最前線～医療立県を目指せ  
 工藤 進英 先生



高校2年生「探究」発表会



サイエンスカフェ



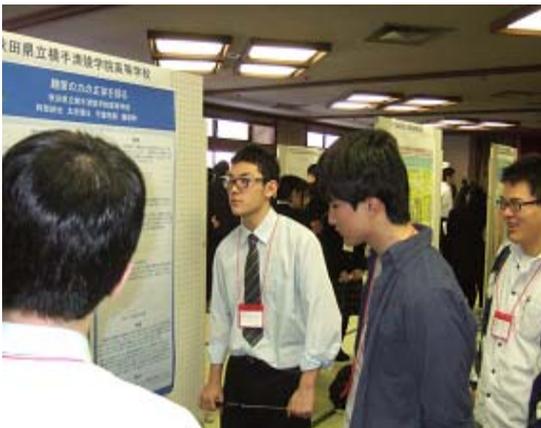
第3回スーパーサイエンスレクチャー  
宇宙の謎にせまる国際リニアコライダー  
成田 晋也 先生



国内研修② 東京・筑波



サイエンスダイアログ  
アリ・ジャムシェディ 先生



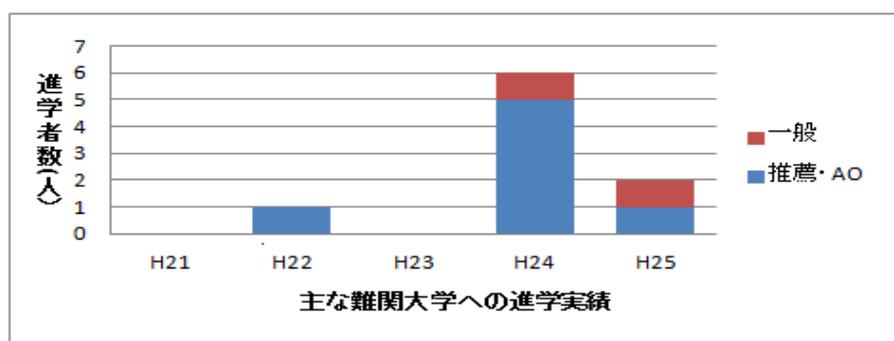
東北SSH指定校発表会（花巻）



秋田県SSH指定校合同発表会

## ○研究開発の成果（各事業）

平成22年に文部科学省より、スーパーサイエンスハイスクールに指定され、五年間にわたり21世紀の世界で活躍する科学者、技術者の育成に取り組んできた。5年間を通じた大きな成果としては第一に理系難関大学に挑戦し、合格を勝ち取る生徒が顕著に増加したことである。下図に示すようにSSH指定初年度入学生（H24年度卒）は医学部医学科や難関大学に複数名合格し、昨年度（H25年度卒）は東京工業大学に合格者が出ている。特筆すべきはSSHの活動を熱心に行った生徒がほとんどで、AO入試や推薦入試でSSHの活動や海外での研修成果を武器に合格を勝ち取っているケースが多い。事業と共に成長してきた生徒達の今後にも注目したい。



※年度は卒業年度。対象は東北大、東工大、早稲田大、秋田大（医学部医学科）等

昨年度、普通科にサイエンス探究コースを設置し、教育課程を整えた。このコースが本校SSHの中心集団となって将来の科学技術系人材となるべく事業に取り組んでいる。次年度はサイエンス探究コースの改善を行い、1年普通科全員にSSH科目（数学、理科）を履修させ、サイエンス探究コースは2年次からのスタートとすることがすでに決定している。

「探究」の質的な向上も年々図られ、テーマが多彩になり、また、内容も深化している。特に昨年度は1年生の終わりに「探究事前レクチャー」を設け、研究活動の流れやテーマ設定について、活動を交えながら研修する機会を設け、スムーズに「探究」に臨めるような試みを行っている。また、文系の研究を充実させる為、「探究特別レクチャー」を設け、国際教養大学の大学生に文系の研究のすすめ方や国際的なスケールでの研究についてレクチャーしていただき、加えて教育実習中の卒業生からも自身の「探究」活動を振り返り、また、現在行っている研究について後輩達に語っていただいた。このことにより文系の研究に弾みをつけることができた。

地域の科学ステーションとしての活動も充実させることができた。SSH指定最終年度ということと本校創立10周年記念事業の年ということもあり、一般の方々にも参加頂ける科学講演「スーパーサイエンスレクチャー」を充実させ、平年1回のところを3回に増やし、実施した。特に第2回は創立10周年記念事業とタイアップし、大腸内視鏡診療の世界的権威である工藤進英先生を講師に迎え、約1000名の参加の中、盛大に行うことができ、参加者の科学への関心を高めることができた。

### (1) 中高一貫教育の特色を活かし、科学好きな生徒を育成する教育の研究

#### 科学男子・科学女子プログラム

中学生が夏期休業中に秋田大学の協力を得て行うサイエンスキャンプでは地域の地質や星の観測学習を行い、郷土の地質環境の理解や科学への夢を育んだ。また、スーパーサイエンスレクチャーでは、応用化学、最新の医学や宇宙研究に触れ、夢のある研究者の活動の現況や、世界的なプロジェクトについての興味・関心を喚起し「科学する心」を育んだ。

中学校自然科学部、高校自然科学部共に各種発表会で研究成果をあげることができた。

### (2) 効果的な高大連携・地域連携により、創造的な研究を行える人材を育成する教育の研究

#### アドバンストサイエンス

「探究」はこの5年間の指定期間の中で本校SSHの大きな柱に成長した。今年度は先述のガイダンス機能の強化に加え、これまで金曜日の午後に実施していたものを火曜日の午後に実施することにした。このことで大会や行事等でグループの指導担当や生徒が抜け、活動が不安定になることも大幅に減少した。今後はフィールドワーク等を行うにはある程度まとまった時間が必要であることの反省を活かし、研究期間のどこかにまとめ取りの日を検討したいと考えている。

今年度の研究成果としては理系においては、日本学生科学賞秋田県審査での審査委員長賞をはじめ、旺文社、東京理科大学 理窓会主催のぼっちゃん科学論文賞での優良入賞や斎藤憲三賞を受賞している。また、自然科学部が東北植物学会で優良賞、家庭クラブが第62回東北ブロック家庭クラブ連盟研究発表会において最優秀賞に輝き来年度行われる全国大会への出場権を得た。

研究発表は以前、自然科学部など特定の研究が各種発表会に出場していたが、近年では「探究」での研究の質が向上したため、各種研究発表会に多くの研究班が出場できる力を付けてきた。また、文系の研究も秋田県SSH指定校合同発表会に出場し、口頭発表、ポスター発表を堂々としている。ほぼ全ての生徒が発表会に参加することで他校の生徒の優れた発表に刺激され、研究へのモチベーションを更に高めていることがアンケート調査などから明らかになっている。ここにまだまだ成長する萌芽を大いに感じ取ることができ

### (3) 地域の科学を発見し、地域とともに創造する科学教育の研究

#### ふるさとスーパーサイエンス

地域住民や小中学生を対象とした「サイエンスカフェ」を2回実施した。今年度は「オスプレイの謎」「くまげらの森から」と題し、地域の希少生物にターゲットとした「ふるさとスーパーサイエンス」にふさわしいテーマとなった。また、「清陵わくわく☆サイエンス」を2回開催し、例年通り、小学生、一般参加者に好評をいただいた。

### (4) 国際的な自然科学研究で活躍する生徒を育成する研究

#### グローバルサイエンス

昨年と同様に、海外(台湾)の研究施設訪問や台湾HSP校との交流を行った。また、「探究」での英文アブストラクト執筆において、英語科との連携を恒常化できた。

## ○次期SSHに向けて

この5年間の指定期間の中で、生徒の科学への関心やレベルの高い進路希望にチャレンジする気概をもつ生徒は確実に増えている。しかし、課題としては、次の点が挙げられる。

- ①中高一貫教育のメリットをより生かし、中学生から段階的に諸能力を育成していく環境を整えること。
- ②工業系学科である総合技術科のSSHに関わる活動を更に充実、発展させること。
- ③国際性を高める活動の対象がこれまで限定的であったことから、対象者を広げること。また、理科と英語の文理融合科目を開発したり国際教養大学の教員や学生の協力を得たりすることで内容の充実を図ること。
- ④県南部の大学・研究機関との連携が難しい地理的環境を克服し、大学との連携を更に推進し、高大接続の研究をすること。
- ⑤よりの確な評価の在り方について研究、検討すること。

これまでのSSHの活動実践を踏まえ、また、これらの課題を克服し、更に本校のSSHが魅力ある教育活動となり、将来の我が国と地域を支える科学技術系人材を育成すべく、研究、実践を行う所存である。

## ◎次期SSHの構想

次期SSHへの申請に当たり、これまでの課題を克服し、さらに本校教育活動全体のレベルアップを図れるような新SSHプログラムの計画を策定した。その概要は次ページ以降のとおりであるが、最大のポイントは本校がこれまで培ってきた普通科「探究」の活動を中学校に広げ、中高一貫教育の6年間に位置づけたこととである。更に高校普通科では3年次に学校設定科目「探究発展SE (Science English)」を新設し、国際教養大学と連携し、英語で研究発表する力を養う。総合技術科では課題研究を学校設定科目「探究発展ST (Science and Technology)」とし、秋田県立大学システム科学技術学部と連携した研究等を行う計画である。

<b>研究開発 課題名</b>	おらほのスーパーサイエンスⅡ～融合と進化～
<b>研究開発 の概要</b>	中高6年間に位置付ける探究活動を中心とした科学教育プログラムを実施することにより、科学技術系人材に必要な「探究力」と「探究心」の育成及び評価を行う。①体系化、系統化された全課程での探究活動②理科・数学の特設科目群による科学的思考力の育成③文理融合科目「探究発展SE」や台湾研修等による国際科学教育等
	<p>(1) 目的・目標</p> <p>21世紀に科学技術分野で活躍できる、「探究力」と「探究心」をもった生徒を育成し、グローバル社会に貢献し得る人材を輩出するとともに、開発した教育法を実践、普及することで科学教育の発展に貢献する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究の仮説</p> <p>これまでの指定期間の取組において、中学校から高等学校普通科、総合技術科に展開する探究学習の中高6年間における体系性と高校における学科間の系統性が課題となっていた。このことから、本校最大の特長である中高一貫教育システムを生かし、中学校・高等学校の6年間にわたる全校規模の探究活動を実施することにより、21世</p>

<p>研究開発の概略</p>	<p>紀に求められる「探究力」と「探究心」を備えた人材を育成することができる。特に、探究活動によって育てたい資質・能力を明確に構造化した上で、高大連携による高度な自然科学やものづくりをテーマとする課題研究を充実させることにより、グローバル化した科学技術分野で活躍する人材を育成することができる。</p> <p><b>(3) 研究開発の内容・実施方法・検証評価</b></p> <p>①中学校段階から探究活動によって物事を科学的に探究する態度を育て、高等学校で更に高いレベルでの探究活動を行うことにより、グローバル化された21世紀の社会で活躍する人材を育成できると考え、中高6年間に位置付ける探究活動を中学校・高等学校の各学年で実施する。プレゼン、論文、ループリックにより評価する。</p> <p>②実験、演習、言語活動、アクティブラーニング等を積極的に取り入れた授業の実施により、科学技術分野における研究を進めるための土台となるスキルや、自然現象に対する好奇心が養成されると考え、理科・数学の特設科目群を実施する。実験レポート等による評価を重視する。</p> <p>③科学技術の世界で英語が不可欠であることを実感するとともに、ツールとしての英語を理解することにより、国際性や語学力を養うことの重要性を認識し、主体的に学習に取り組むようになると考え、海外研修（台湾連携校での英語による課題研究発表）、サイエンスダイアログを普通科高2で、特設科目探究発展SE（ScienceEnglish）を高3で実施する。総合技術科でも海外企業研修等に参加し、国際性を高める。パフォーマンス評価、プレゼン資料、アンケートにより評価する。</p> <p>④最先端科学体験・・・サイエンスキャンプ、SSH国内研修I・II、スーパーサイエンスレクチャーを実施。最先端科学体験を積む。科学技術系の進路への高い志を養う。</p> <p>⑤地域貢献・・・サイエンスカフェ、清陵わくわくサイエンス等の科学教室を実施。生徒が指導に関わることで地域とSSHを結び付け、地域の科学ステーションを目指す。</p> <p>※SSH活動全般に渡り、6年間を通した「SSHポートフォリオ」を開発・作成し生徒の成長を長期的な視点で検証する。</p> <p><b>(4) 科学技術人材育成に関する取組内容・実施方法</b></p> <p>6年間を通したポートフォリオによる評価により、特に科学技術に意欲が高く、かつ能力に優れた生徒を発掘・育成する。高校自然科学部の取組等により、科学系コンテストに継続して参加できる体制を確立する。</p> <p><b>(6) 成果の普及</b></p> <p>研究発表や地域貢献活動、ホームページ等で情報提供を行い、成果を全国に知らせる。</p> <p><b>(7) 課題研究に係る取組</b></p> <p>「探究ジュニア」、「探究基礎」、「探究」及び「探究発展」並びに自然科学部において、大学や研究機関と連携したサイエンスとテクノロジーに関する課題研究を実施する。</p> <p><b>(8) 必要となる教育課程の特例等</b></p> <p>普通科、総合技術科ともに教育課程上に「探究基礎」「探究」等の探究科目を設定する。普通科サイエンス探究コースを中心として数学、理科のSSH特設科目群を設定する。</p>
<p>その他 特記事項</p>	<p>これまでも地元FMラジオ局の協力を得て、PR活動にも力を入れてきた。今後、研究成果の発信も含めてラジオ局の協力を得て、広く地域に伝えていく予定である。</p>

## ○運営指導委員会の記録

### 第1回運営指導委員会

日 時 : 平成26年5月23日(金) 13:30~15:30

場 所 : 秋田地方総合庁舎 6階 総606会議室  
(〒010-8570 秋田市山王四丁目1-2)

#### 出席者

##### 運営指導委員

秋田大学学術研究科長	大山 弘正 (代理)
秋田県立大学 教授	秋山 美展 (代理)
東北電力(株)秋田支店設備計画部長	加藤 尚 (代理)
よこて発酵文化研究所所長	多賀糸敏雄
JUKI電子工業(株)経営管理部次長	中川 裕之

##### 管理機関

高校教育課主幹(兼)班長	伊藤 雅和 (代理)
高校教育課主任指導主事	佐藤 彰久
高校教育課指導主事	藤澤 修

##### 本校担当職員

横手清陵学院中学校・高等学校校長	谷口 敏広
高等学校教頭	堀川 茂進
中学校教頭	江畑 讓
主幹(兼)事務長	石川 清二
SSH推進部	佐々木輝雄
	瀬々 将吏
	佐々木純悦
	千葉 裕子
SSH事務	小松 路子

#### ◎委員からの提言

##### 秋田大学 大山委員

- ・外部資金によって教育活動は高まるが、5年で終わるとその後につながらない。ぜひ次期もチャレンジしてほしい。
- ・成果もPRすべき。
- ・英語力の育成も重点化してほしい。

##### 秋田県立大学 秋山委員

- ・理系の実験でツールやスキルを一から指導しなければならず、実験時間が確保できない。授業以外のサークル活動等を活用できないか。また、高校生の研究を中学生に手伝わせたらどうか。

#### 発酵文化研究所 多賀系委員

- ・ G A B Aヘラアイスについては、味や氷の削り方を継続して研究してほしい。地元の第一次産品も活用してほしい。
- ・刈和野にある秋田今野商店では微生物農薬による土壌の改良も行っている。このような研究も活用できるのではないか。

#### 東北電力 加藤委員

- ・今後の5年を考えた時、文系の感覚にも重点を置いたテーマの開発で、研究に広がりを持つてのではないか。
- ・「研究」は後につながるものであり、将来的には事業化にもつなげてけると良い。

### 第2回運営指導委員会

日 時 : 平成26年11月12日(水) 16:00~16:50

場 所 : 本校会議室

#### 出席者

##### 運営指導委員

秋田県立大学 教授	秋山 美展 (代理)
東北電力(株)秋田支店副支店長	小野 秀児
よこて発酵文化研究所所長	多賀系敏雄
JUKI電子工業(株)経営管理部次長	中川 裕之

##### 管理機関

高校教育課主任指導主事	佐藤 彰久
-------------	-------

##### 本校担当職員

横手清陵学院中学校・高等学校校長	谷口 敏広
高等学校教頭	堀川 茂進
中学校教頭	江畑 譲
主幹(兼)事務長	石川 清二
SSH推進部	佐々木輝雄
	瀬々 将史
	佐々木純悦
	千葉 裕子
SSH事務	小松 路子

#### ◎委員からの提言

##### 秋田県立大学 秋山委員

- ・平成22年度よりいぶりがっこの指導に携わってきたが、年度を経るに従って生徒にやってもらえる時間が減ってきたように思う。
- ・中高一貫校の魅力は、同じ生徒が研究を継続できることではないか。中学生の研究

テーマについて、背伸びしたものではなく、自分たちがおもしろいと思うものに、いかに気づかせるかが大切。

#### **東北電力 小野委員**

- ・「探究」を通じて思考力・分析力が身につく、また学問のおもしろさに気づくことができる。
- ・一番大切なのはテーマ設定であり、何を課題として取り組むかである。そのために、より様々な分野に触れることのできる取り組みが必要。

#### **JUKI 中川委員**

- ・若者達の好奇心を伸ばすことと、一つのテーマを深く掘り下げることの兼ね合いが大切だ。
- ・中学生にどう取り組ませるかが課題だろう。OB・OGの卒業後の活動にも注目し、夏休み等にOBらと連携することで、中学から大学までの一つの線ができれば、SSHの成果も深まるのではないか。

### 3 校外研修の記録

#### (1) 教員派遣研修

五十嵐宏秀

## 平成26年度教員派遣研修実施報告書

学校番号	43	学校名	横手清陵学院高等学校
記載者職氏名	教諭 五十嵐 宏 秀		

研修講座名・訪問校名・研修先住所等		研修日時
電気自動車・燃料電池車 ・ソーラーカー製作講習会 一次世代自動車の開発につながるエコカー技術ー		3月7日 8:50～17:40
東海大学高輪キャンパス2号館大講義室 (〒108-8619 東京都港区高輪2-3-23)		計1日間、8時間
講師・担当者名		研修者氏名(教科名・校務分掌)
池上敦哉 (KYBモーターサイクルサスペンション) 高橋道夫 (ミツバ) 福澤智之 (長野県飯田OIDE長姫高等学校 教諭) 山本晴彦 (トヨタテクニカルディベロップメント) 中村昭彦 (first step AISIN AW) 木村英樹 (東海大学工学部電気電子工学科教授)		五十嵐宏秀 (総合技術科 システム工学類 教諭)
計6名		計200名
研修のねらい	1 エコカー製作の最新技術を学び、課題研究や課外活動の指導に役立てる。 2 全国初の工業系中高一貫校というメリットを生かすために、中学校から将来の技術者を育てるためのテーマにできないか検討する。	
研修内容・状況等	講習プログラム ・「講習会開催にあたって」 川越繁一 (日本太陽エネルギー学会事務局長) ・「ソーラーカー, エコムーブ基礎講座-設計から走らせ方まで」 池上敦哉 (KYBモーターサイクルサスペンション) ・「WEM車両” ULTIMATE TESLA' 14” の作製」 高橋道夫 (ミツバ) ・「電動エコランカーの製作と各大会に向けた対応」 福澤智之 (長野県飯田OIDE長姫高等学校) ・「WEM車両” MONO-F” の企画・設計」 山本晴彦 (トヨタテクニカルディベロップメント) ・「ワールド・エコノ・ムーブのアイデア集8」 中村昭彦 (first step AISIN AW) ・「EVカート製作とリチウムイオン電池の使い方」 木村英樹 (東海大学)	
成果と課題	エコカーレースマシンの製作講習会であったが、内容は走行抵抗を減らすためのマシンの剛性や安全性、運転のしやすさなどの機械的なものから、バッテリーの特性や充電方法などの電気的なもの、そしてエネルギーマネジメントや費用に関するものまで、非常に多岐にわたったものであった。 特に印象深かったのは長野県立飯田OIDE長姫高等学校の福澤先生の講演である。私たちと同様の工業高校の機械科教諭でありながら、企業と一緒にマシンを開発し、トヨタ、ホンダなどの日本の名だたる自動車メーカー社員チームと肩を並べるトップクラスの成績を維持している。通常では入手出来ないアモルファス合金を努力して入手し、ワイヤーカットでモーターのコアを自分たちで製作していることには大変に驚いた。秋田の工業高校でも出来ないわけではなく、大変な刺激を受けた。商業科とも協力して活動しているとの事で、本校も普通科とともに活動が出来たら素晴らしいと感じた。 また、「公式を信じすぎるな。常識に囚われるな。感じる力が重要だ。」とトップ技術者の方々が口を揃えていっていた。ソーラーカーの世界チャンピオンマシンのTokaiチャレンジャーの開発者である東海大学木村教授は日本人がモノから感じ取る感性は絶対に外国人にはわからない。それこそが日本人の素晴らしいところだとおっしゃっていた。 今回、大潟村で行われるEVミニカートというレースマシンの説明もあった。ドライバーが中学生以上でも大丈夫なマシンであり、中学生の製作も可能か木村先生に質問したところ全く問題ないとのことであった。「大学だから技術が上ということはない。将来の技術者を育てるために開発したマシンカテゴリーであり、ぜひチャレンジして欲しい。」との事であり、まさに本校にぴったりである。ぜひ検討してみたい。	

## 4 年次研修の記録

- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| (1) 高等学校10年経験者研修 | 松井泰紀<br>宮原 公<br>奥 健悦 |
| (2) 高等学校初任者研修    | 渡部亮太                 |

# 高等学校教職10年経験者研修を終えて

総合技術科システム工学類  
教諭 松井泰紀

## 【はじめに】

研修前のこの10年を振り返って自己評価をすることで、経過経験目標に対して未熟さを痛感させられ、教育者として認識すべき点を数多く勉強させていただいた。

## 【センター研修項目および感想】

### 共通研修

- ・本県学校教育の現状
- ・学校の危機管理
- ・教育公務員の服務
- ・本県の教育課題とこれからの学校教育

これらの研修では、自らの年代に託される我が県の教育への自覚と対応、また決して他人事にはならない事件事故への危機管理を自ら発信する姿勢、教育公務員としての事故を起こさないための自己管理能力や組織づくりなど確認することができた。

### 教科指導等研修

- ・質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略
- ・キャリア教育の在り方
- ・学校全体で取り組む情報教育
- ・これからの高等学校に求められる教科指導の在り方

これらの研修では、質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略として、生徒が将来必要となる探究力を養わせるため、教師の授業構築力を向上させる要素を、また、キャリア教育の在り方では、育成能力の視点や現代の高校生に即した対応策など各校の先生方の取り組みをもとに内容を深めることができた。授業づくりと研究授業の実践では、学力3要素を基盤に言語活動として発問の場面や形態・生徒の回答の共有など模擬授業を題材に、ワークショップ型研究会からキーオピニオンへの導き方の要点、さらに指導要領改訂の概要・あきたの教育振興基本計画の概要・専門学科の現状把握・評価のとらえ方のポイント・各校における言語活動の実践例と課題に対する検討などを通じて、それらの要素から目の前の生徒の実態に合わせた柔軟な対応力が必要であると感じた。

### 生徒指導研修

- ・ 生徒理解と人間関係づくり
- ・ 事例を通して見た不登校・いじめ
- ・ 教師が使えるカウンセリングの技法
- ・ 問題行動への具体的な対応

これらの研修では、生徒が安心して学習できる環境づくりとして、まだまだ教師として押さえられていない部分や資質、教師が使えるカウンセリングの技法では、聴くということ・本人が心の中で原動力を見い出せるポイント、さらに事例を通して見た協議では、各校における総合的な組織としての対応力について、それまでの経験やぶれてはならない観点など確認することができた。

### 授業研修

平成26年9月9日（火）  
秋田県立秋田工業高等学校  
2年 機械科A組 33名（男子29名、女子4名）  
2校時 機械工作  
機械工作1（実教出版）  
第4章 溶接、 3. アーク溶接とアーク切断



この授業研修では、工業ならではの授業の観点について、揺るぎない部分と時代の流れに対応しなければならない部分に焦点を置き、御指導ならびに御助言を頂き、再確認することができた。特に、年数を重ねてきたことによる怠慢になりがちな意識を見直す必要性など、このような場面を計画して頂いたからこそ気付くことができた。

### 【 おわりに 】

これらの研修を振り返り、社会で力強く生き抜ける魅力ある工業高校生の育成のため、柔軟な指導力、そして世界に誇れる技術、それを生み出す源の継承が重要であると再確認できた。

最後に、この場をお借りして、御指導・御鞭撻をいただいた先生方に厚く御礼申し上げます。お忙しい中、誠にありがとうございました。

# 選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	秋田県立横手清陵学院高等学校	職・氏名	教諭 松井 泰紀
研 修 先	有限会社 永澤弓具		
研修期間	平成26年 7月23日(水)～平成26年 7月25日(金)		

## 1 研修の概要

7月23日(水)

管入れ、羽丈取り(3本)、刻印、管入れ(天弓)、  
羽丈取り(5本)、管・矢尻外し、羽のし



7月24日(木)

糸巻き、糸決め、下塗り(3回)、上塗り(3回)、

7月25日(金)

矢尻外し、尺切り、根入れ、毛引き、羽のし



## 2 研修の成果

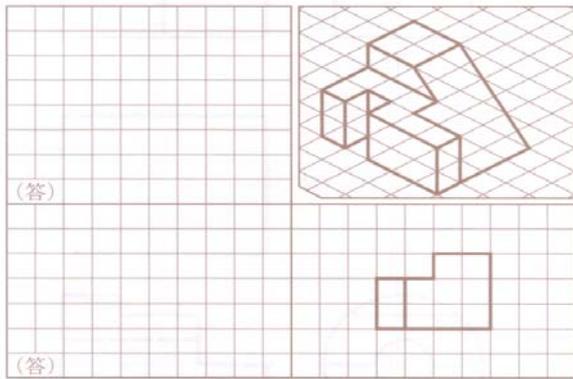
今回の研修では、日本の武道のひとつである弓道の弓具づくりに触れることで、御矢師の精神や伝統文化の継承について理解を深めることがねらいであった。「御矢師(おんやし)」とは、あまり聞きなれない言葉だが、弓道の弓矢を作る職人のことで、永澤家は歴代の伊達藩主に仕え、全国でも数少ない御矢師である。明治始めの廃藩置県の影響で仙台では武具の仕事が成り立たなくなった。7代目は大御所から招かれ、戦前まで東京に工房を構えていたが、9代目のときに第二次世界大戦で疎開を余儀なくされ、母の出生地である五城目に工房を構えた。秋田は、密度が高く、質の良い矢竹がとれるほぼ北限に位置するとされている。御矢師の矢は、「八角」と命名され、シャフト中央部の断面が実際は正九角形に整えられており、その洗練された芸術性と矢飛びは群を抜き、全国の弓道家を魅了している。

3日間の研修を通して改めて感じたことは、伝統技法におけるそのこだわりの精神である。今回、担当した各作業工程について説明すると管入れ工程は、弦を番える部位で3枚の羽根のうち走り羽根との配置関係を保ちつつ、管の打ち込み度合いを調整するなど伝統技法に基づいた気配りや精度を実感することができた。糸巻き工程では、管から糸1本分開けた位置から糸を巻きつけるわけだが、この作業は糸と糸に隙間がなく、且つ締めつけながらという熟練技が必要とされる。また、糸がほつれないように溶剤でコーティングを施すわけだが、その工程として糸決め・下塗り(3回)・上塗り(3回)という尺取りから合わせると9工程にもおよび、そこへかける伝統技法とこだわりに感動した。この他にも様々な工程を体験し、実際に納品する巻藁矢もらせていただいた。

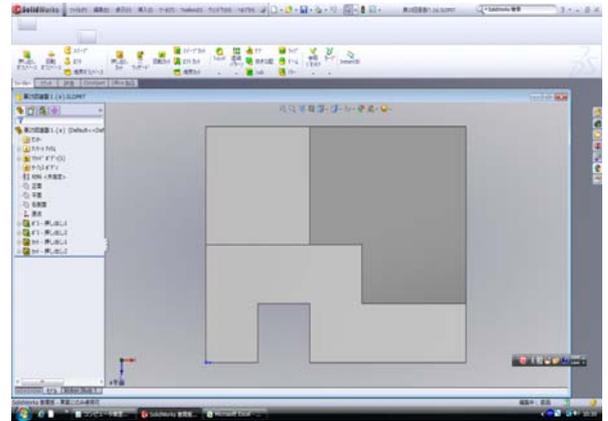
この選択研修では、私の専門である機械分野におけるものづくり精神や求められる精度と精通する部分と手作りによる伝統ものづくりの神髄や愛着心を学ぶことができた。また、高等教育では社会に出てから自ら考え、主体的に課題を解決するための力を養わせる必要があり、職場でのスムーズなコミュニケーション能力の向上も踏まえ、改めてその重要性を感じる事ができた。今後は、これらのことを教育場面すべてにおいて活用し、これからも自ら学ぶ姿勢で研修などを積んでいきたい。最後に、このような貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。

# 特定課題研究レポート

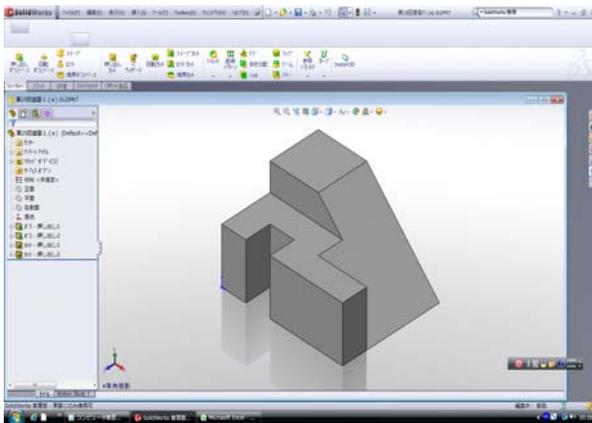
所属校	横手清陵学院高等学校	職・氏名	教諭 松井泰紀
研究分野	(A) 教科指導    B 学級・学年・学校経営    C 生徒指導 D 進路指導    E 特別活動に係る指導    F 総合的な学習の時間に係る指導 G 特別支援教育に係る指導    H その他		
研究テーマ	3次元CADソフト「Solid Works」による授業での活用について		
<p><b>1. 研究の概要</b></p> <p>工業の機械分野では、頭の中で製品を立体的にイメージし、そこから図面化する力として、あらゆる方向から物体を把握する能力が必要とされ、ものづくりの基幹となる。教科書には、3次元空間の立体（部品）から2次元化（図面化）する手順が示されているが、複雑化してくると手法だけに偏りがちになり、結果として鍛えたい能力に対して段階を踏んで辿りつけない生徒が多くなる傾向にある。また、教師側としても単純立体であれば自作教材で対応してきたが、難易度が上がると製作にも限界が生じる。そこで、3次元CADソフト「Solid Works」を利用して、動きのある視覚教材にすることにより、「2次元と3次元の相互変換」をイメージしにくい生徒にもわかりやすく興味を持たせたい。また、授業での課題設定の在り方の工夫し、生徒自身が解決の糸口を導き出す能力をさらに伸ばしたいと考え、このテーマを設定した。</p> <p>&lt; 研究内容 &gt;</p> <p>3次元CADソフト「Solid Works」の利用</p> <p>既に準備してある習熟別のモデリングファイルから生徒自身が自分の理解度に適したものの選択し、マウスによる物体回転などで第三角法からの面の見え方を導いたり、答えの確認のために用いる。合わせて2次元への変換において、注意すべき点などをワークシートにまとめさせることで、のちの再確認や周りへのサポート時に役立てさせる。</p> <p>【対象科目と単元内容】</p> <p>高校1年 総合技術科 製図 「第1編 製図の基礎」 6. 立体を平面で表す方法</p> <p>【授業展開】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒が確認したい物体（等角図）のモデリングファイルを選択する。</li> <li>② 第三角法投影図「正面図・平面図・右側面図」において、確認したい面を見やすい角度まで回転させる。（マウスによるドラッグ回転、もしくはプルダウンメニューによる面選択）</li> <li>③ 2次元図面化（実線と破線・かくれ線の区別）</li> <li>④ 答えを導くうえで、留意すべきポイントなどをワークシートにまとめる。</li> <li>⑤ グループごとの発表や生徒間のサポートからコミュニケーションをとることで、理解度を共有させる。</li> </ol> <p><b>2. 成果と課題</b></p> <p>&lt; 成果 &gt;</p> <p>物体把握のイメージがパソコンの画面上でできるため、基礎段階の展開能力向上が顕著で、何よりも生徒自身が答えの導き方のポイントを見い出せ、課題に挑戦しようとする学習意欲を成長させてくれた。また、生徒間サポートにより自身の理解度はもちろん、コミュニケーション能力向上にも繋がった。</p> <p>&lt; 課題 &gt;</p> <p>ソフトの性能上、破線（かくれ線）よりも実線が優先されるなど、留意点を考慮した使用条件であることを認識させる必要がある。</p>			



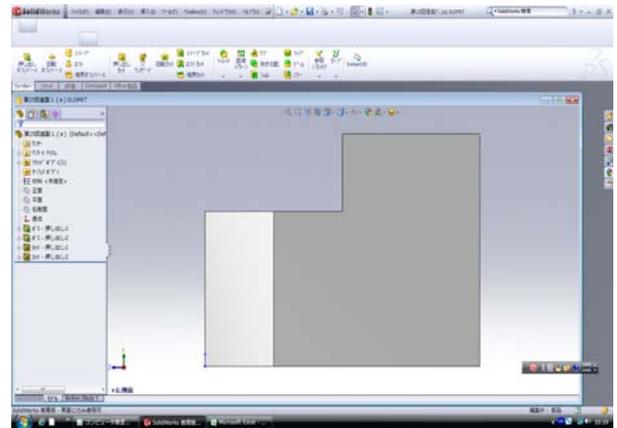
問題



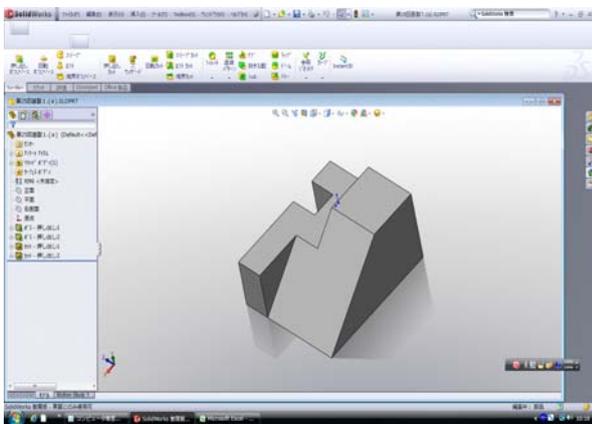
物体 I : 投影図 (平面図)



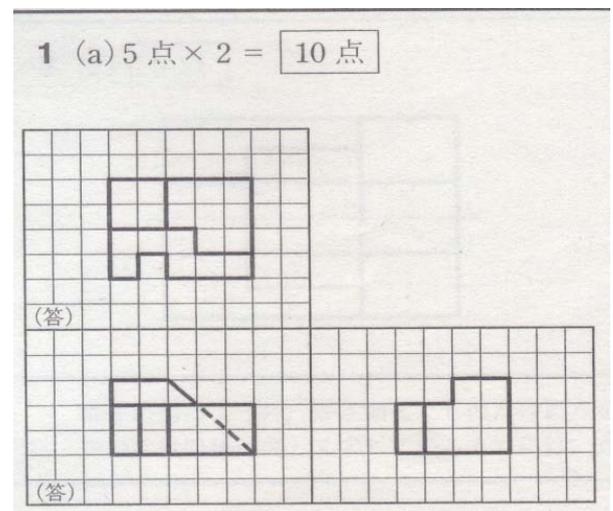
物体 I : 等角図



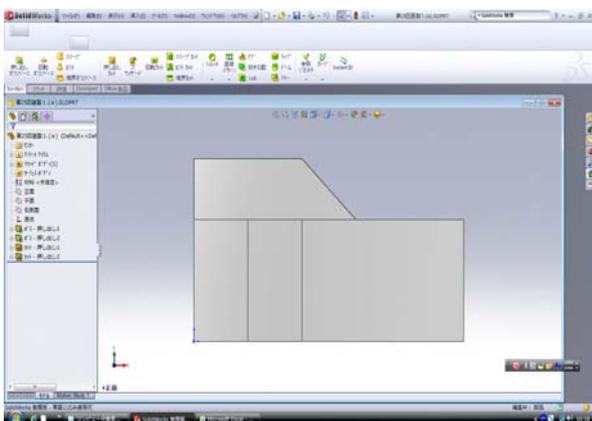
物体 I : 投影図 (右側面図)



物体 I : 等角図の回転



解答 : 投影図



物体 I : 投影図 (正面図)



授業風景

# 高校教職 10 年経験者研修を終えて

国語科

教諭 宮原 公

## 1. はじめに

今年度教職 10 年経験者研修を行った。研修を通して、今まで自己の教育活動の振り返りをすることができた。総合教育センターでの講義を中心とする研修と、秋田中央高校と本校での授業研修、さらには選択研修（企業研修）が主な内容となる。

## 2. 総合教育センター研修、および高校教育課担当研修について

### 【センター研修】

I 期	6/26	本県学校教育の現状 学校の危機管理 質の高い授業研究を継続的に進めてゆくための方略
II 期(a)	8/5	キャリア教育の在り方 学校全体で取り組む情報教育 イブニング・セミナー
II 期(b)	8/6	授業づくりと授業研究の実際 これからの高等学校に求められる教科指導の在り方 I・II
III 期	9/4	生徒理解と人間関係づくり 教師が使えるカウンセリングの技法 事例を通して見た不登校・いじめ・問題行動への具体的な対応
IV 期	1/9	教育公務員の服務 10 年経験者研修のまとめ 本県の教育課題とこれからの学校教育

### 【高校教育課担当研修】

4/14	基礎研修
9/9	授業研修（授業実践・授業参観・協議）
自主設定（3日間）	選択研修（企業体験研修・センターC講座等）

#### （1）総合教育センター研修について

年間を通して、現在の秋田県や日本が直面している教育の課題について学ぶことができた。「学校の危機管理」では、「学校は安全でなければならない」という基本的な考え方を元に、不審者や災害への対応について協議を行った。事前の危機管理だけでなく、その場で柔軟な対応をすることが求められると感じた。「生徒理解と人間関係」については、「教師が使えるカウンセリングの技法」「事例を通して見た不登校・いじめ・問題行動への具体的な対応」との関連もあり、体系的に研修を受けることができた。全ての指導は生徒との信頼関係を築くことが基本となる。信頼関係を元に、不登校・いじめ・問題行動への対応をしていきたいと思う。

「教育公務員の服務」、「本県の教育課題とこれからの学校教育」については、自分自身が教員としてどうあるべきかを再度認識することができた。初任から 10 年経過し、求められることも変化している。それに対応する力量が試されている。

## (2) 教科指導等研修

8月6日の「これからの高等学校に求められる教科指導の在り方Ⅰ・Ⅱ」での研修を元に、9月9日(火)に授業研修が秋田中央高校で行われた。事前に評論を読ませ、それを元に授業者がそれぞれの教材観をとらえ授業を行った。同じ教材でありながら、授業者により授業内容が違い、興味深く研修を受けることができた。私は本文から重要語句抜き出したカードを用いて、グループ毎に短文を作成する言語活動を行った。熊谷禎子指導主事からは、目的が明確にされており思考の深化が見られる授業であると講評をいただいた。

言語活動については国語科が率先して行うことが求められていると思う。今回の授業研修では、①プリントに文章を作成する、②キーワードに関連させて思考を広げる、といった言語活動が多かった。しかし、言語活動は活動することが目的ではない。あくまでも文章全体を正確に理解し、学習者が思考の変化を実感することが重要である。その点においては、今回の研究授業はそのレベルに達していない授業が多く、継続して研修をすることが必要と感じた。

## 3. 特定課題研究

研究テーマ	和歌の授業における言語活動の実践
研究方法	I C Tと図書文献をもとに和歌の解釈について調べ学習を行う。生徒自身が授業者となる発表形式で講義を行い、理解を深める。

(詳細は「特定課題研究レポート」)

生徒が意欲的に調べ学習、発表活動と取り組んでくれた。生徒の実態をふまえた言語活動ができたように思う。普段と違う授業形式が、生徒にとっても私にとっても新鮮であった。今後も言語活動を取り入れた学習を行っていきたい。

## 4. 選択研修(企業等体験)

期 間	平成26年8月2日(土)～4日(月)(3日間)
研修先	秋田県立近代美術館

(詳細は「選択研修報告書」)

秋田県立近代美術館にて、セカンドスクール事業での教材作成や運営補助を行った。横手市内にこのような文化的施設があるにも関わらず、普段は全く利用する機会がない。今回の研修で美術館に対する意識が変化したように思う。授業や様々な活動における活用を考えていきたい。

## 5. おわりに

閉講式の際の講話「本県の教育課題とこれからの学校教育」では秋田県教育の現状との課題について話があった。教職10年を経過した教員にとって、研修を受ける機会のあったこの10年よりも、今後の教員生活の方が長い。その中で、自己研鑽の意識を持たないと、今後の教員としての成長が望めないと感じた。

今回の研修において、校長先生はじめ多くの先生方からご指導をいただいたことに感謝している。今後の教育活動に十分に生かしていきたい。

# 選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	横手清陵学院高等学校	職・氏名	教諭 宮原 公
研 修 先	秋田県立近代美術館		
研 修 期 間	平成26年8月2日(土) ～ 平成26年8月4日(月)		
<p>1. 研修の概要</p> <p>8月2日(土) オリエンテーション  施設・設備、展示室の見学  教育普及事業の準備作業  (鑑賞シートの作成、セカンドスクール事業の準備)  研修のまとめ</p> <p>8月3日(日) 養育普及事業の準備作業(鑑賞シートの作成)  教育委普及事業補助  (子ども会の進行補助、造形作業補助)  研修のまとめ</p> <p>8月4日(月) 造形活動の制作体験  受付・監視業務  職員との意見交換、研修のまとめ</p> <p>2. 研修の成果</p> <p>秋田県立近代美術館は今年で開館20周年を迎え、これまで秋田県社会教育を支えてきた。身近にありながら、芸術等の創作活動など行わない人にとってみれば美術館を利用することが少ない。そこで今回の研修では美術館の作品展示だけではなく、社会教育の施設としてどのような取り組みを行っているか学びたいと思い研修の場を選択した。</p> <p>今回の研修では、主にセカンドスクール事業の補助が中心となった。美術館では美術品の展示だけではなく、社会教育の場として地域に強くアピールしていることを感じた。近隣の小・中学校を始め、県内のさまざまな学校が美術館を利用しており、地域と連携することで、美術館の存在意義があるように感じた。今回は大きく分けて、美術館の展示物についての教材作りと、創作活動の活動補助の2つを行った。</p> <p>教材作りについては、展示物の写真をラミネートフィルムでカバーをかけ冊子にするというものであった。近隣の小・中学校に貸し出しを行い、事前学習に役立てるということであった。単純な作業ではあったが、普段このように手間をかけて教材作りを行っておらず、この夏季休業中に教材作りや教材研究を再度徹底したいと感じた。一度丁寧に作った教材は自分の財産にもなるとも感じた。</p>			

2日目にいった教育委普及事業補助は、地域の子ども会の進行補助であった。新聞紙を用いてフロア中央に新聞紙を1枚ずつランダムに5m四方に重ね、そこで未就学児童から小学校高学年までのおよそ20名をかくれんぼ等の遊びをさせ、緊張感をほぐし、材料に対する理解を深めさせる導入は大変興味深かった。異学年集団であることから、いろいろなことが懸念されたが遊びが単純で分かりやすいことが子どもたちの興味喚起につながっていたように思う。

その後は5～7名程度のグループに分かれ、新聞紙とガムテープを用いて高い塔を作るという創作活動を行った。保護者もグループに入ったため、創作活動の時間になると同時に保護者は作戦会議を始め、子どもたちは新聞紙を集めて遊ぶという対照的な姿が印象的であった。各グループでの活動が、子どもたちが中心になっているグループと、保護者が中心となっているグループとあった。子どもの創作活動ではあるが、ある意味では大人でも楽しめる企画であり、今回の創作活動の多様性を感じることができた。時間制限があるため、子どもたちが知恵を絞りアイデアを出す時間が少なく、大人の補助があって高い塔が完成できたように思う。もし、時間を多く取ることができれば子どもたちのアイデアを反映することもできたと思われる。

作業終了後には結果発表を行い、後片付けまで全員参加で行った。今回は子ども会であるが、普段は同学年の集団で行うことが多く、学芸主事の方も新鮮であったと述べていた。異学年集団でも、最後まで協力しながら作業を終えることができたように思う。

最終日は創作体験を行い、副館長の指導をいただきながら木工創作を行った。子どもたちは作業を通して、アイデアや発想力を養うだけでなく、集中力を身につけることもできるということであった。このような創作作業は、個人で行うものだけでなく集団で行うものもあり、目的に応じて活動できると感じた。

最終日の午後からは、研修のまとめとして担当していただいた学芸主事と副館長と意見交換をする機会を設けていただいた。さまざまな企画展示会だけでなく、セカンドスクールとして美術館に足を運んだことをきっかけにして、美術館を多く利用して欲しいということであった。また、美術館に勤務している方のほとんどが教員であるということであった。新たな教育の場としてのあり方を学んだり、芸術作品に対しての専門的知識を深めたり、普段の学校教育の現場には無いことを学ぶことができると伺った。また、美術館のホールではコンサートなども行い、多様な施設利用もできるということであった。単に美術の授業や、芸術鑑賞の一環として美術館を利用するだけでなく、小集団での活用もできると感じた。国語の教員としては、展示物を生かしながら古典などの鑑賞教材としての活用が考えられる。自己の専門性を生かしながら、同じ教育の場としての美術館を活用しながら生徒に還元していきたいと思う。

今回の研修では、学校教育と社会教育の連携について学ぶことができた。それぞれ行っていることは違っていても、そこで「教育活動」をしている職員の思いは同じである。知識や技術を身につけたことの喜びは、何事にも代え難い貴重な経験である。本校に戻り、もう一度教員としてのあり方を確認し、今後の教育活動に生かしていきたいと思う。

# 特 定 課 題 研 究 レ ポ ー ト

所 属 校	横手清陵学院高等学校	職・氏名	教諭 宮原 公
研 究 分 野	(A) 教科指導      B 学級・学年・学校経営      C 生徒指導 D 進路指導      E 特別活動に係る指導      F 総合的学習の時間に係る指導 G 特別支援教育に係る指導      H その他		
研 究 テ ー マ	和歌における言語活動の実践		
<p>1. 研究の概要</p> <p>和歌の単元で、単元の前半に調べ学習とその発表に向けての学習を行い、中盤で生徒の全体発表（担当した和歌の解説）、まとめとしてグループ内発表（担当していない和歌の解説）を行った。ここで留意したのは、生徒の発表を、単元の締めくくりではなく中盤に位置づけたことである。生徒に発表が学習のゴールではないという意識を持たせるだけでなく、グループ活動や発表は和歌を深く学ぶための手段であることを自覚させるようにした。その上で、グループで話し合う内容の焦点化を図るために、ワークシートを活用した。教師側の支援として適宜ワークシートの点検を行い、生徒の発表の質を高める手立てを講じるようにした。</p> <p>・学習活動の工夫</p> <p>本研究では発表活動を重視した。私が以前行ってきた発表活動は、調べた内容を模造紙に書き、それを掲示し、あらかじめ準備した説明の用紙を見ながら説明するという形式であった。それでは掲示物や説明の用紙に書かれてあることを読み上げるという作業になっていると感じていた。そこから脱却するために、生徒が板書しながら解説をするという形式にした。他人に教授するという行為は、生徒自身の中で知識の構築と定着が図られると考えた。</p> <p>〔授業におけるグループ・ペア学習〕 1グループ4人構成</p> <p>(1) 万葉・古今・新古今の十八首について調べ学習。二首選択→図書館とipad [グループ学習]</p> <p>①教科書の単元「王朝秀歌」「古今和歌集仮名序」から十八首を選択した。その基準として、国語便覧に載っていること、六歌仙の和歌、修辞・文法事項に重要性のあるものを教師側で選択した。 (資料1、2)</p> <p>②4人グループを2人ペアにし、4人で2首担当させた。</p> <p>(2) 調べた和歌についてワークシートにまとめる。[ペア学習]</p> <p>①図書館の文献とICTを使用し、ワークシートを作成させた。(資料3)</p> <p>②調べ学習が不足している場合は、教師が助言を行った。</p> <p>(3) (2)を元に、発表のための内容を考える。[ペア学習]</p> <p>①作成したワークシートを元に、ペアで重要事項の確認と共有を行った。</p> <p>②発表の形式を、生徒が板書しながら解説するという形式にした。</p> <p>③板書案と解説の内容をワークシートにまとめさせ、発表練習を行わせた。(資料4)</p> <p>④上記①～③の活動について、教師が適宜点検を行った。</p>			

(4) 生徒による発表と発表内容について感想と評価をまとめる。

- ①全てのグループで作成した(2)のワークシートを冊子にして全員に配布した。
- ②ワークシートの評価を先に行い、発表中は発表の評価を中心に行わせた。(資料5、6)
- ③発表後は内容に関しての質疑を行った。質問が無い場合でも、重要事項や主題に関わることは教師が支援した。
- ④①で配布したワークシートに発表内容をメモさせ、(5)の学習につなげさせた。

(5) グループ内で担当していない和歌について解説しあう。[グループ学習]

- ①(4)①で配布した冊子を用いて、グループ内で知識の共有を図った。
- ②夏休み明けの課題テストの範囲とした。

## 2. 成果と課題

### (1) 成果

- ①既習の文法事項の理解が深まった。(知識の定着)
- ②個々の調べ学習を基盤として他の和歌を解説することで、学びの深化と共有ができた。
- ③作者の価値観や時代背景に基づいた和歌の解釈があった。(知識の活用・読む力・思考力)
- ④〈ワークシートに整理→交流〉によって発表内容の精選を図ることができた。  
(判断力・表現力)
- ⑤聞き手に配慮した伝え方を考え、そのための発表原稿を作成していた。(表現力)

主観的な見方でもあるが、今回の和歌の学習で扱った文法事項については全体的に正答率が上がっているように思う。この点に関しては、今後の定期考査や小テストなどでその成果を明らかにしたい。また、授業においては初見の文においては重要な文法事項箇所を指摘できるようになった。ペア・グループ学習においても積極的に意見交流が見られるようになった。今回の言語活動の取り組みが古文学習の改善につながったといえる。

### (2) 課題

本研究では、文法学習についての意識が変わり、和歌の読解がより深まったことに生徒自身が気づくことができた。特に、助動詞は1年次の既習事項を活かすことができたが、助詞については定義が曖昧な生徒が多く、今後継続して助詞の学習をしていきたい。また、古文単語についても、量的に不足しており、語彙力をつけることが3年次に向けての課題となる。3年次では、教科書だけでなく、学習した古文に関連する様々なジャンルの文章も読むことで、一層の読む力の育成を図っていきたい。

万葉集 四首

- ① 東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ  
柿本人麻呂
- ② 春の野にすみれ摘みにと来し我そ野をなつかしみ一夜寝にける  
山部赤人
- ③ わが園に梅の花散るひさかたの天より雪の流れ来るかも  
大伴旅人
- ④ わが宿のいささ群竹吹く風の音のかそけきこの夕かも  
大伴家持

古今和歌集 八首

- ⑤ 霞立ち木の芽もはるの雪降れば花なき里も花ぞ散りける  
紀貫之
- ⑥ 初雁のはつかに声を聞きしより中空にのみ物を思ふかな  
凡河内躬恒
- ⑦ 名に愛でて折れるばかりぞ女郎花我おちにきと人の語るな  
僧正遍昭
- ⑧ 月やあらぬ春や昔の春ならぬわが身ひとつはもとの身にして  
在原業平
- ⑨ 吹くからに野辺の草木のしをるればむべ山風を嵐といふらむ  
文屋康秀
- ⑩ 我が庵は都のたつみしかぞ住む世を宇治山と人はいふなり  
喜撰
- ⑪ 思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを  
小野小町
- ⑫ 鏡山いざ立ち寄りて見て行かむ年経ぬる身は老いやしぬると  
大友黒主

新古今和歌集 六首

- ⑬ 山深み春とも知らぬ松の戸に絶え絶えかかる雪の玉水  
式子内親王
- ⑭ 春の夜の夢の浮橋とだえして峰に別るる横雲の空  
藤原定家
- ⑮ 橘のにはふあたりのうたた寝は夢も昔の袖の香ぞする  
皇太后宮大夫俊成
- ⑯ 鳩の海や月の光の移ろへば波の花にも秋は見えけり  
藤原家隆
- ⑰ 津の国の難波の春は夢なれや葦の枯葉に風渡るなり  
西行法師
- ⑱ 思ひあまりそなたの空をながむれば霞を分けて春雨ぞ降る  
藤原俊成

## 国語科（古典）学習指導案

日 時：平成26年7月14日

授業クラス：2年1組

使用教科書：精選古典B 古文編（東京書籍）

授業者：宮原 公

## 1. 単元名

万葉秀歌 王朝秀歌（詩歌）

## 2. 単元の目標

- (1) 和歌に対する関心を深め、感想や印象をまとめる。(関心・意欲・態度)
- (2) それぞれの和歌の情景を読み取り、鑑賞を深める。(読む能力)
- (3) 三大歌集に対する知識を深め、文学的意義や歴史的意義を理解する。(知識・理解)
- (4) 和歌の修辞を理解する。(知識・理解)

## 3. 生徒の実態

1年次は文法事項による知識習得に重点を置き学習してきた。1年次で習得した基本事項を基盤にして、2年次では古典作品を深く読み味わうことに重点を置いてはいる。しかし、生徒が自ら既習の文法事項を和歌の解釈に活かすところまで至っていない。

## 4. 指導計画（全8時間）

- ①鑑賞シート作成の説明、割り当て決め、調べ学習の説明（グループ・ペア）…1時間
- ②和歌の鑑賞文作成（調べ学習、シートの作成、ペア・グループ）…4時間（2/4時間目）
- ③講義形式の発表の準備（グループ・ペアでの模擬講義）…1時間
- ④生徒による講義形式の発表…1時間
- ⑤まとめ…1時間

## 5. 単元の評価規準

A 関心・意欲・態度	D 読む能力	E 知識・理解
○授業での理解をもとに、和歌への興味を深めている。 ○ペア・グループ内で意見を交換し、鑑賞シートを意欲的に作成している。	○歌に詠まれている情景や心情を読み取っている。	○三大歌集の特徴を理解する。 ○講義形式の発表を通して、文法事項・修辞について、知識を深める。

## 6. 本時の計画

- (1) 目標 発表を視野に入れ、ペア・グループで調べ学習をする。
- (2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入	・本時の活動内容の確認。 ・目標の確認。	・ワークシートを用いて説明する。	・本時の目標を確認できたか (関心・意欲・態度：観察)
展開	・図書館での文献、携帯通信端末を利用し、まとめる。	・情報量の厳選を図るよう助言する。 ・遅れているペア・グループには助言などを行う。	・意見交換しながら作業しようとしている。 (関心・意欲・態度：観察) ・適切な情報を理解し、まとめることができる。 (読む能力、知識・理解：ワークシート)
まとめ	・次時の活動の確認。	・次時の活動内容を、ペアで確認させる。	



和歌の鑑賞 3 授業のポイントを確認し、有効的な教え方を考える

傍線：文法的説明 二重線：語句 波線：

⑤ 霞立ち木の芽もはるの雪降れば花なき里も花ぞ散りける

板書

説明のポイント

資料 4

⑥ 初雁のはつかに声を聞きしより中空にのみ物を思ふかな

板書

説明のポイント

# 和歌の鑑賞

和歌の鑑賞 4 講義と評価

- 生徒による講義で知識の共有と深化を図る。
- 適切に評価をし、ノート作成の参考にする。

名前 組 番号

Ver 21

万葉集 四首

- ① 東の野にかざろひの立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ
- ② 春の野にすみれ摘みにと来し我そ野をなつかしき一夜寝にける
- ③ わが園に梅の花散るひさかたの天より雪の流れ来るかも
- ④ わが宿のいささ群竹吹く風の音のかそけきこの夕かも

柿本人麻呂  
山部赤人  
大伴旅人  
大伴家持

古今和歌集 八首

- ⑤ 霞立ち木の芽もはるの雪降れば花なき里も花ぞ散りける
- ⑥ 初雁のはつかに声を聞きしより中空にのみ物を思ふかな
- ⑦ 名に愛でて折れるばかりぞ女郎花我おらにきと人の語るな
- ⑧ 月やあらぬ春や昔の春ならぬわが身ひとつはもとの身にして
- ⑨ 吹くからに野辺の草木のしとるればじべ山風を嵐といふらむ
- ⑩ 我が庵は都のたつみしかぞ住む世と宇治山と人はいふなり
- ⑪ 思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば寤めざらましと
- ⑫ 鏡山いざ立ち寄りて見て行かむ年経ぬる身は老いやしぬると

紀貫之  
凡河内躬恒  
僧正遍昭  
在原業平  
文屋康秀  
喜撰  
小野小町  
大友皇立

新古今和歌集 六首

- ⑬ 山深み春とも知らぬ松の戸に絶え絶えかかる雪の至水
- ⑭ 春の夜の夢の浮橋とだえして峰に別るる横雲の空
- ⑮ 橘のにはふあたりうたた寝は夢も昔の袖の香ぞする
- ⑯ 鳩の海や月の光の移ろへば波の花にも秋は見えけり
- ⑰ 津の国の難波の春は夢なれや芽の枯葉に風渡るなり
- ⑱ 思ひあまりそなたの空をながむれば霞を分けて春雨ぞ降る

式子内親王  
藤原定家  
皇太后宮大夫俊成  
藤原家陸  
西行法師  
藤原俊成



Large empty rectangular area for student work, including notes and answers to the questions.

和歌の鑑賞4 ～講義と評価～

組 番 名 前

講義5分・質疑3分・評価と感想2分

発表和歌(初句) ②春の野に 山部赤人 【歌集 万葉集】		
発表者		和歌の感想
資料	文章の分かりやすさ	
	説明の詳しさ	
	レイアウト・装飾の工夫	
講義	文法事項の解説	
	主題の解説	
	解説の工夫	
各項目5点満点		合計30点満点

発表和歌(初句) ⑩思ひつつ 小野小町 【歌集 古今集】		
発表者		和歌の感想
資料	文章の分かりやすさ	
	説明の詳しさ	
	レイアウト・装飾の工夫	
講義	文法事項の解説	
	主題の解説	
	解説の工夫	
各項目5点満点		合計30点満点

発表和歌(初句) ⑤霞立ち 紀貫之 【歌集 古今集】		
発表者		和歌の感想
資料	文章の分かりやすさ	
	説明の詳しさ	
	レイアウト・装飾の工夫	
講義	文法事項の解説	
	主題の解説	
	解説の工夫	
各項目5点満点		合計30点満点

発表和歌(初句) ⑭春の夜の 藤原定家 【歌集 新古今集】		
発表者		和歌の感想
資料	文章の分かりやすさ	
	説明の詳しさ	
	レイアウト・装飾の工夫	
講義	文法事項の解説	
	主題の解説	
	解説の工夫	
各項目5点満点		合計30点満点

発表和歌(初句) ⑩わが庵は 喜撰 【歌集 古今集】		
発表者		和歌の感想
資料	文章の分かりやすさ	
	説明の詳しさ	
	レイアウト・装飾の工夫	
講義	文法事項の解説	
	主題の解説	
	解説の工夫	
各項目5点満点		合計30点満点

発表和歌(初句) ⑩橘の 皇太后宮大夫俊成女 【歌集 新古今集】		
発表者		和歌の感想
資料	文章の分かりやすさ	
	説明の詳しさ	
	レイアウト・装飾の工夫	
講義	文法事項の解説	
	主題の解説	
	解説の工夫	
各項目5点満点		合計30点満点

資料 5

投票用紙

①講義を聴いて、最も気に入った和歌は？ 【初句】→ 思ひつつ

理由 恋愛観を繊細に描写している和歌であるから。

②講義が最も優れていた人は？ 【名前】→ \_\_\_\_\_

理由 質問への文法事項であって正確に答えてくれたから。

今回の授業全体を通しての感想

今回の授業では、これまで資料や情報を用いて  
その和歌に対して何を言ってきたか。文法・語句の  
他に作風のせい立ちや背景を知ること。その様子を鑑賞する  
ので、大事なことではなかったか。最後の発表は  
数学の解答解説の発表では違々、疑念を込めて  
相手に届けて、理解してもらえたら、方法は何かに添って  
そのように根拠がよい。一番発表の上では大事だと思ふ。  
この解説を授業に取り入れてほしい。

【学習のまとめ】

①調べ学習について

◎調べ学習で良かったこと  
コンピューター室の利用

いろいろな情報があった。

図書館 (iapadについても) の利用

本の方が詳しく、信用できる。

▼調べ学習で困ったこと

コンピューター室の利用

じかが本当なのか?、まじい

図書館 (iapadについても) の利用

句をみつけるのが大変。

②学習内容の定着について (学習前に比べて)

単語について、知識や理解が深まったか

とてもそう思う

変わらない

(どういう点で)

5・4・3・2・1

初めて知った単語が20こ

助動詞・助詞について理解が深まったか

とてもそう思う

変わらない

(どういう点で)

5・4・3・2・1

活用・石置詞や文法目次を石置詞

③学習形態について

自分が講義を行うことで、授業や古典の学習に対して気づいたことや、何か意識の変化はあったか。

言葉が明確に話せばいいから、聞きやすいと気づいた。

音調がわかれたし、頭にすく入った。

④授業全体において、気づいたことや改善点。(あれば…)

アウトプリントは大切!!!

## 高校教職 10 年経験者研修を終えて

数学科

教諭 奥 健悦

### 1. はじめに

平成 26 年度の教職 10 年経験者研修を受けた。これまでの自分の教育活動やサービスのあり方を振り返り、今後の自らの目標を立て、学校の教育活動の充実させるための機会とした。

### 2. センター研修、および高校教育課担当研修について

#### 【センター研修】

I 期	6/26	本県学校教育の現状 / 学校の危機管理 / 質の高い授業研究を継続的に進めてゆくための方略
II 期(a)	8/5	キャリア教育の在り方 / 学校全体で取り組む情報教育 / イブニング・セミナー
II 期(b)	8/6	授業づくりと授業研究の実際 / これからの高等学校に求められる教科指導の在り方 I・II
III 期	9/4	生徒理解と人間関係づくり / 教師が使えるカウンセリングの技法 / 事例を通して見た不登校・いじめ・問題行動への具体的な対応
IV 期	1/9	教育公務員の服務 / 10 年経験者研修のまとめ / 本県の教育課題とこれからの学校教育

#### 【高校教育課担当研修】

4/14	基礎研修
9/9	授業研修（授業実践・授業参観・協議）
自主設定(3 日間)	選択研修（企業体験研修・センター C 講座等）

#### (1) 共通研修について

『学校の危機管理』では、震災で人命が失われた小学校と免れた小学校の事例が紹介された。想定にとらわれず、迅速に行動した教員の対応が生死を分けた。組織で臨機応変に行動するためには、普段からの職場の雰囲気や人間関係などが必要だと感じた。危機管理は危機への事前の備えだけでなく、平時の組織作りから始めるものだと感じた。

『教育公務員の服務』では「秋田県教育関係職員必携」を使用して演習問題を行った。服務のことを教員採用試験や初任者研修で覚えたが知識として覚えていただけだった。あらためて服務の在り方について考えると、社会における自分の立場と守るべき行動そのものであると感じた。

## (2) 教科指導等研修

9月9日(火)に数学科の校外研究授業が秋田西高校で行われた。他の研修教員は数学Ⅰの「2次方程式の解の存在範囲」で授業を行った。研修教員数と当該校のクラス数の関係で、私は数学Aの「条件つき確率」で授業を行った。指導案について高校教育課の藤原指導主事、センターの小松田指導主事から丁寧な指導助言をいただいた。数学科の事前指導で「言語活動の充実」と「狙いを明確にした授業評価」を重視して授業づくりをするように指導された。また次の3点に留意するよう指導があった。

- ① 広い学力観に基づき授業を構成すること。「課題を解く」では狭い学力観である。
- ② 「授業の狙いを達成した生徒の姿」を意識して「本時の目標」をたてること。
- ③ 「複数の生徒が協力して解く」「言語活動を充実させる」活動を取り入れること。

研究授業ではグループによる相談、発表の場面の設定が多くみられた。限られた時間を効率的に活用して授業を展開してゆく必要があった。研究授業では、プロジェクタによる投影や、学習シート、板書を減らすための具体物の提示などの工夫が見られた。

秋田西高校での授業ではICTを活用した授業は行わなかったが、今年度横手清陵学院高校に転勤し、授業や補習でコンピュータやプロジェクタを利用している。同期採用の教員同士でICTの活用について情報交換をし、今後の授業改善に役立てたいと考えている。

## 3. 特定課題研究

研究テーマ	授業におけるICT活用の実践と課題
研究方法	ICTを活用している数学教員の授業を参観し利点と課題を聞く。 授業を実践して感じたことや参観した教員や生徒の意見をまとめる。

(詳細は「特定課題研究レポート」)

題材によってはICT活用の効果が薄い場合もある。生徒の理解が深まったり、活動が促進されたりする場合に積極的に活用したい。他の教員や生徒の意見に耳を傾け、ICTの活用で言語活動が活発になり、数学の力が伸びるよう授業を追求したいと思った。

## 4. 選択研修(企業等体験)

期間	平成26年7月22日(火)～24日(木)(3日間)
研修先	陸上自衛隊秋田駐屯地

(詳細は「選択研修報告書」)

自衛隊秋田駐屯地に行き、公務員の心構えを再確認した。自衛隊の組織と役割、自衛官の仕事、新隊員の生活などを知るとともに、訓練の一部に参加した。貴重な体験をすることができた。今後の教育活動に役立てたい。

## 5. おわりに

センター研修のⅣ期の、閉講式を兼ねた講話「本県の教育課題とこれからの学校教育」では秋田県の現状と学校教育の課題、秋田県の教員として望まれていることについて話があった。これからの教員に望まれていることは非常に多いと感じるとともに、それに応えていけるよう努めたいと思った。教職10年経験者研修を通して、これまでの教員経験と研修を、今後の自分の成長と、良い教育活動のために役立ててゆきたいと思った。

# 選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	秋田県立横手清陵学院高等学校	職・氏名	教諭 奥 健悦
研 修 先	陸上自衛隊秋田駐屯地		
研修期間	平成26年 7月22日(火)～平成26年 7月24日(木)		

## 1 研修の概要

7月22日(火)

- 9:00 ～ 入隊、全般説明・自衛隊紹介
- 10:00 ～ 駐屯地内施設見学・教育隊訓練見学
- 13:10 ～ 基本教練・戦闘訓練(実習、基本動作説明)
- 18:30 ～ 地域協力本部(自衛隊の組織と高校生の採用説明)

7月23日(水)

- 9:00 ～ 天幕・射撃予習(迫撃砲中隊訓練見学)
- 13:00 ～ 服務教育(座学、服務と営内生活・新隊員の進路)
- 15:30 ～ 体育(体験実習)

7月24日(木)

- 8:30 ～ 戦闘訓練(軽火器1班、体験実習)
- 11:30 ～ 離隊



第21普通科連隊隊内生活体験 平成26年7月24日 秋田駐屯地



## 2 研究の成果

自衛隊という防衛や災害救助、国際貢献にかかわる組織について学び、仕事を体験し、危機管理への意識を高め日頃の学校における諸問題の解決への新たな視点を得ることを目的として研修を行った。

### (1) 自衛隊について

陸、海、空ともに新隊員は入隊後、新隊員教育(前期・後期)を受けた後、16科ある中隊に配属される。各中隊は専門的な技能を持った集団である。中隊への配属は新隊員の適性や希望をもとに決定される。各中隊において、技能の向上のため日々訓練が行なわれている。

### (2) 新隊員教育と隊内生活について

新隊員とともに「服務と営内生活」の講義を受けた。「自衛官は勤務時間内外を問わず、高い職業倫理が求められる」という話を聞き、研修先において公務員の心構えを再確認した。朝夜の点呼、朝礼、間稽古、演習、講義、食事、入浴など新隊員と生活を共にした。新隊員は10人を一班とする集団行動が基本であった。私も新隊員同様に活動した。課業終了後は、作業服の洗濯やアイロンがけ、半長靴磨きなどを行った。

### (3) その他

教官が新隊員に「環境整備」について話をしていた。清潔の維持だけでなく「不測の事態に対し、即応するための備え」であると話していた。駐屯地正面入り口に最も近い駐車場には災害派遣時の車両が置かれていた。担当の広報官が「知事からの要請があればすぐ行動できるよう車両の整備も物品の準備もできている」と話していた。私は、自衛隊が非常事態を常に意識し絶えず準備と訓練を行っていることを実感した。

3日間という短い期間であったが、自衛隊の組織と役割、自衛官の日々の仕事、新隊員の訓練と生活の一端を知ることができた。また訓練の一部に参加し実際の厳しさを体験することができた。想定される厳しい状況に対処するために、日頃の意識付けと、物心両面での備えを絶えず行うことが大切であると強く感じた。

この研修で得られた貴重な体験を、今後の自らの成長や学校の教育活動に役立てたいと思う。最後に、体験研修を受け入れて下さり、御指導いただいた陸上自衛隊秋田駐屯地の皆様から感謝申し上げます。

# 特定課題研究レポート

所 属 校	横手清陵学院高等学校	職・氏名	教諭 奥 健悦
研 究 分 野	(A) 教科指導      B 学級・学年・学校経営      C 生徒指導 D 進路指導      E 特別活動に係る指導      F 総合的な学習の時間に係る指導 G 特別支援教育に係る指導      H その他		
研 究 テ ー マ	授業におけるICT活用の実践と課題		
<p>1 研究の概要</p> <p>〈テーマ設定の理由〉</p> <p>新学習指導要領では言語活動の充実が重視されている。授業で課題にグループで取り組んだり、考察を発表する場面を設けるようにしている。限られた時間でその活動を行うために、ICTを活用した授業を実践したいと考えている。ICTを活用した授業について調べ、実際に授業を行い、どのような利点と課題があるかを調べ、次年度以降の活用に向けてノウハウを蓄積する。</p> <p>〈方法〉</p> <p>ICTを活用している数学教員の授業を参観し、授業者が感じている利点と課題を聞く。実際に授業をし、授業者として感じたことや、参観した教員や生徒の意見をまとめる。</p> <p>〈対象科目〉</p> <p>数学Ⅰ「2次関数」・・・2時間、「データの分析」・・・4時間（10/24研究授業）          数学Ⅱ「三角関数」・・・4時間（2/3研究授業）</p> <p>2 成果と課題</p> <p>【10年研の数学科教員との意見交換】</p> <p>ICTの活用は、同期採用の数学科教員の中でも関心は高かった。日々活用している教員もいた。すでにICTを取り入れた授業を実践している教員からは「授業で便利だが、常に授業で使うためには自前のものがなくて、かなりの費用がかかった」という意見があった。教科書を画像データとして通信端末に取り込んでプロジェクターで投影する授業を参観した。10年研の先生だったが、その後チョークの粉で機材が故障し、修理費がかかりICTを使わない授業に戻したと聞いた。今後使いたいと考えている教員からは「活用方法を覚えたいが余裕が無い」「機材が使いたいときに無く継続的に使用できない」という意見があった。今回ICTを活用する上で、私費を極力使用しないこと、継続して活用するために機材の設置や事前準備に時間をかけず、教材研究の負担にならないように心掛けた。</p> <p>【授業のために準備したもの】</p> <p>PCは支給されているものを使用し、スキャナーやプロジェクターは職場のものを使用した。デジタルカメラは、家庭で使っていないものを使用した。スクリーンは重く、教室への持ち運びの労が大きく、使用しないことにした。模造紙の裏面に薄い磁石を貼りスクリーンの代わりとした。</p> <p>【授業者として感じたこと】</p> <p>2次関数や三角関数ではグラフの描画が正確である。「軸の移動」「定義域の変化」「動径の変化」ではグラフや軌跡を動的に表現でき、生徒にイメージを持たせる上でとても役立った。データの分析では度数分布表や散布図などを黒板に書く時間を減らすことができ、指導したいことに時間をかけることができた。生徒に説明させる場面では、複数の生徒が解答を黒板前で説明でき、他の生徒の考え方を知ることができ、理解を深められたと思う。PC、プロジェクター、スクリーン、そして自分の立つ位置など、スムーズな授業のためにもっと工夫の必要を感じた。板書の仕方やノートの内容をどうするかなど、授業を受けた生徒の声を聴きながら改善を進めたいと思った。</p>			

### 【授業を参観した先生方からの意見】

ICTを活用する場合、題材がとても重要だと思う。数学におけるICTの効果的な活用として、動的なものを視覚化することで論理的な説明と結び付けられることにあると思う／2月3日の授業でICTの活用が生徒にとって効果的であったのかは検証の必要があるが、最後に生徒の解答を映して全体に説明させたのは解答づくりの観点からも良かったと思う／公式を導く過程をPower pointなどで流して確認だけにすると時間の短縮になると思う／生徒のノートを直接デジタルカメラで写して確認するのは良いと思う／画像の輝度を調整するフリーソフトがあるのでそれを利用すればよい

### 【授業を受けた生徒達からの意見】

① ICTを活用した授業を行ったクラスへのアンケート（1年生1クラス33名）

Q. 1「プロジェクターを使った説明はわかりやすいですか」という質問に対して、5段階で評価してもらった。数値が少ないほど良好な評価となる。「2. 3」という結果であった。コメントもおおむね好意的なものであった。授業の進む速さや、板書についての項目も好意的な評価は多かったが、以降にも記すように改善を求める意見もあり、それらを踏まえてより良い活用方法を考えたいと思う。

②この実践でのプロジェクターの使用方法について

（良かった点）グラフが見やすい／黒板に投影した図にチョークで記入すると見やすい／板書よりも動きがあってわかりやすい／GRAPE Sの図はグラフが正確でわかりやすい／問題をイメージしやすい  
（課題点）投影された図が薄く、見づらいためノートに書くのが遅くなる／光の反射で見えにくかった／スクリーン代わりの模造紙をもう少し広くした方がよい／スクリーンをホワイトボードと同じ材質のものを使ってみてはどうか／Ipadなどを使用してはどうか／投影したグラフなどをノートに写す時間がほしい／人の位置によっては見えにくい

③デジタルカメラを利用して生徒に説明する方法について

（良かった点）友達のノートを見ることができ、考え方を知ることができてよい／板書しなくてもいいし、授業で多くの人々の解き方を見ることができるので良い／見やすいノートであれば黒板に投影してもらおうとありがたい／言葉だけで説明されるよりも、図や式を映して説明してもらえるので良い  
（課題点）投影した字が汚かったり、薄かったり、潰れたりして見にくいときがある／画質が悪いときがある／黒板に書かせてもよいのでは

### 【改善に向けて】

2学期から授業だけでなく補習等でもICTを活用しているが、参観した先生からの意見があったとおり、題材によっては効果的に役立てられないものもある。ICTを使ったときに、それが生徒の理解が深まったり、生徒の活動が促進されたりするものであれば、これからも積極的に活用してゆきたい。すべてにおいてICTを使うのではなく、教材の内容を踏まえて精査し活用してゆくことが大切だと認識した。

言語活動の充実のため、生徒による発表を取り入れている。生徒のノートの投影は板書の手間を省き、時間を確保する目的においては役割を果たしている。しかし投影されたものの見えやすさの問題が生徒や先生方から挙げられた。機材の性能の問題だけでなく、生徒のノートや学習シートの解答の見やすさや正確さといった、記述力の問題もある。そのための指導が必要であると感じた。今後も他の教員や生徒の意見に耳を傾け、よりよい授業が実践できるように努力したいと思う。ICTの活用により言語活動が活発になり、数学の力が伸びるような授業を追求したいと思った。

# 平成 26 年度 初任者研修を終えて

理科 渡部 亮太

## 1. はじめに

この 4 月に辞令交付を受け、横手清陵学院に赴任してからあっという間の 1 年だったように感じる。この 1 年、教諭として様々な業務に取り組みながら校内、校外において本当に多くの先生方からご指導を頂いた。ご指導頂いた先生方全員に感謝しながら、この 1 年間に振り返りたいと思う。

## 2. 校内研修

### 2.1 教科研修

指導教員の細谷先生に教科指導についてご講義頂いたり、私の授業を見て頂き改善点について助言をいただいたりし、より効果的な教科指導について学ばせて頂いた。特に私が考えさせられたのが「小テストの活用の仕方」である。小テストを実施する目的を明確にし、ただ点数をつけ評価するだけの道具としてではなくそこから次の指導の道筋を見つけ指導の材料として活用する。言葉にすれば簡単のように見えるが、実際運営しようとしてみると簡単な話ではない。今年 1 年細谷先生やその他多くの先生に助言頂きながら試行錯誤し、ようやく運営の仕方が分かってきた。これについてはこれからも精進を続け、結果に結びつけたい。また、複数回の研究授業で理科のみならず他教科の先生からも授業についての助言を頂いた。その中で一番気をつけなければならないと思ったことは、生徒に発問をするということを意識するべきという点である。私は生徒に教えることを重視するあまり、生徒への呼びかけが質問にとどまったり発問をしても答えを誘導してしまったりすることが多い。このことを先生方に指摘いただき気づくことができた。発問の内容をより精査し、生徒の発想を呼び起こせるような授業を行いたい。

### 2.2 一般研修

谷口校長先生、堀川教頭先生をはじめ多くの先生方に教諭としての心構えや分掌の運営について教えて頂いた。特にこの学校は中高一貫や SSH などの特殊性を持ち合わせている学校であり、学校の特色に合わせた教育の姿勢を考えることが重要であることを学んだ。講師時代にも様々な形で学校運営には関わってきたが、教諭となると責任能力をはじめ色々な観点が変わってくる。先生方に教えて頂いた心構えを忘れずに日々精進を重ねていきたい。

### 3.校外研修

校外研修は主に秋田県総合教育センターに赴き、おおよそ月に1回の頻度で行われた。内容は授業研修、生徒指導やHR運営の心がけなど多岐にわたって行われ、そのどれもが非常にためになり、考えさせられる内容であった。今はその中で特に印象深かったものを振り返る。

#### 3.1 授業研修 A (総合教育センター)

6月に行われた高校教育課主催の授業研修で、高校初任者30名の中から選ばれた6名がそれぞれ他の初任者や指導主事の前で模擬授業を行い、それについて協議する研修である。私はこの模擬授業6名の中の1人であり、初めて他教科の先生方前で模擬授業を行った。いつもは理科の先生方と模擬授業を行っており、その誰もが理科についてある程度知っている状況であったが、今回は生徒と同じく物理のことを知らない先生方を対象にした模擬授業であり、そこで頂いた意見は非常に新鮮で自分の授業のやり方について新たな方向性が見えた研修であった。

#### 3.2 PA (Project Adventure) 研修 (岩城少年自然の家)

8月に岩城少年自然の家で行われたPA研修は間違いなく私の教育の新たな価値観が見えた研修であった。この研修は集団生活と課題達成の過程を通し、人と人が結びつく過程や指導者としての在り方を学ぶ研修である。よい集団が形成されるにはただ課題を達成させるだけではなく、その課題自体に工夫を凝らし適切な支援を送らなければならない。私はこの研修で課題を達成する側となり、他の先生方と協力して様々な課題に挑むうちに自然と初対面に近い先生方とも親交を深めていた。後にその仕組み、うまく支援するための手段を教えて頂き、自分でもいつかそれを実践できるようになりたいと考えるようになった。今はまだそれを実践するための下地ができていないが、いつか実践したいと考えている。

そのほかにも特別支援学校の訪問や新屋高校へ赴いての授業研修、秋田北鷹高校に赴いての教育専門監の授業見学など、普段の業務では見ることのできない様々な教育の形を見せて頂き、多くのことを勉強させて頂いた。そこで吸収したものを少しずつ形にし、やがて結果へと結びつけられるよう、これからも精進していきたい。

### 4.最後に

この一年間、4月当初の自分と比べれば確実に成長した自分を感じ取れる。それはこの研修で積み重ねた明らかな「経験」に基づくものである。そんな貴重な経験をする機会を与えてくださった指導教員の細谷進先生をはじめ、ご指導頂いた先生方、本当にありがとうございました。いつかそのご恩をお返しできるようこれからも精進して参ります。

## 編 集 後 記

「平成26年度研究紀要第10号」の発刊にあたり、校務ご多忙の中、貴重な原稿をお寄せ下さった先生方に、深く感謝申し上げます。

この研究紀要が今後の先生方の研修等に、少しでもお役に立てれば幸いです。

研修・国際部

## 平成26年度 研究紀要 第10号

発行 秋田県立横手清陵学院 中学校・高等学校  
秋田県横手市大沢字前田147番地の1  
電 話 0182-35-4033  
FAX 0182-35-4034